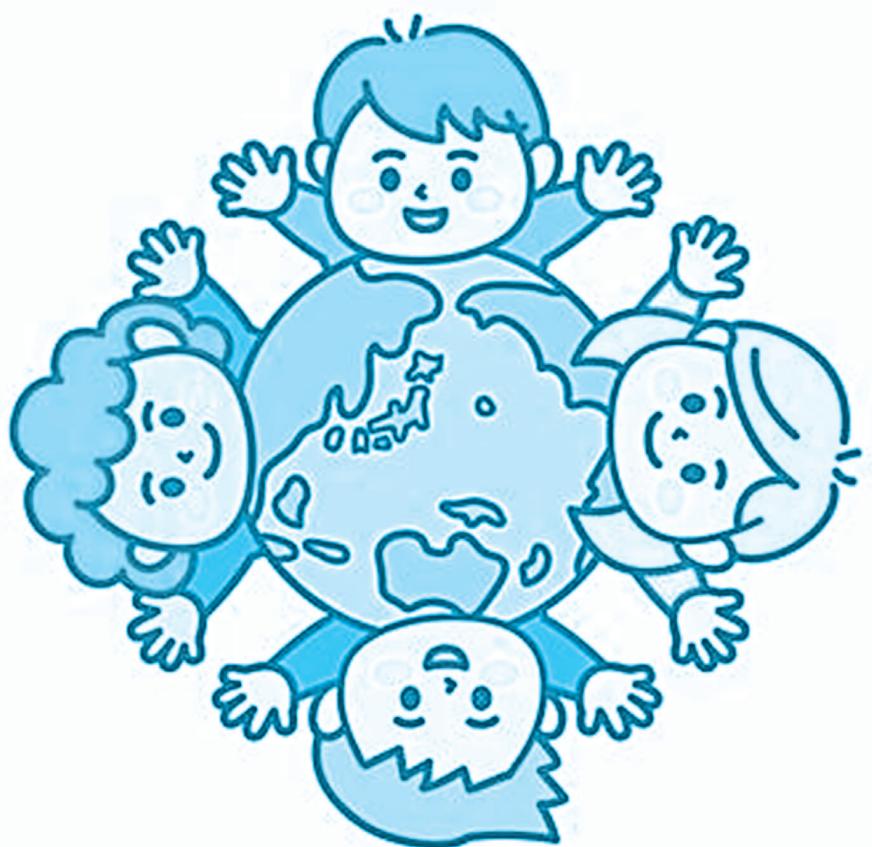


研究所所報

2022年2月 No.163

ものごとを多面的に捉え平和的に
解決する子どもたちを育てるために
～3つの視点による平和教育実践集～



静岡県教職員組合立教育研究所

国際連帯と平和教育研究委員会



研究所 HP

目 次

| | |
|--|----|
| 卷頭言 21世紀を担う子どもたちのための平和教育を | 2 |
| 共同研究者 伊藤 恭彦 | |
| 平和と暴力の主体という自覚 | 4 |
| 共同研究者 加治 宏基 | |
| 実践 1 中国に対する意識改革～中国文化体験を通して～ | 6 |
| 小学校 1年・3年・4年 道徳科 小林 健二（富士市立岩松北小学校） | |
| 実践 2 低学年から考える食品ロス | 12 |
| 小学校 2年 学級活動 寺田 祐基（河津町立西小学校） | |
| 実践 3 平和的に問題を解決する力を育てるために | 16 |
| 小学校 2年 道徳科 斎藤 尊（伊東市立旭小学校） | |
| 実践 4 エネルギー問題について考える | 22 |
| 小学校 4年 社会科 富田 由美（牧之原市立相良小学校） | |
| 実践 5 平和的に問題解決する力をつける国語の授業 | 26 |
| 小学校 5年・6年 国語科 神田 美里（沼津市立原東小学校）（藤枝市立青島小学校） | |
| 実践 6 だれもが“安心・安全なくらしが”できる未来をつくるために | 32 |
| 小学校 5年・6年 総合的な学習の時間／道徳科 安西 佐織（磐田市立磐田北小学校） | |
| 実践 7 日中韓のよりよい関係について考える | 38 |
| 小学校 6年・中学校 3年 社会科 梶山 高秀（静岡市立井川小中学校） | |
| 2年間の研究をふり返って | 44 |

21世紀を担う子どもたちのための平和教育を



共同研究者 伊藤 恭彦（名古屋市立大学）

2019年から世界的に感染が拡大した新型コロナウイルス感染症は、私たち人類に多くの課題をつけました。地球上の特定の地域で発生した感染症があつという間に地球全体に拡大しました。このことは20世紀末からすんだグローバリゼーション（国境を越える人、もの、情報の移動）が地球を一体化させた、地球が運命を共有する人々の共同体になったことを明確にしたといえます。しかし、私たちは運命を共有した人間として、力を合わせ人類共通の惨禍に立ち向かうにはほど遠い状況にあります。地球上すべての人たちにワクチンを接種することが、世界的な感染症の終息につながることを誰もが知っているにもかかわらず、ワクチン・ナショナリズムが台頭していることはその一例です。また感染してしまった人のほとんどには何の罪もないにもかかわらず、感染者や感染者の家族、さらには感染対策の最先端で奮闘しているエッセンシャルワーカーの方々とその家族を差別し、排除する傾向も強まりました。

新型コロナウイルス感染症の問題は医療の問題であるだけでなく、人ととのつながりの問題であり、さらに言えば他者とともに暴力を使わずに問題を解決していく平和の問題でもあります。この2年間、国際連帯と平和教育研究委員会はコロナ禍で対面による十分な活動ができませんでした。しかし、この『所報』に掲載されている所員のみなさんの実践は、新型コロナウイルス感染症の時代（ウィズ・コロナ時代、アフター・コロナ時代）を生き抜く子どもたちに必要な平和的問題解決能力の育成につながるものばかりです。

国際連帯と平和教育研究委員会で実践の柱としてきた平和的問題解決能力について改めて整理しておきましょう。私たちは人間社会から対立はなくならないという前提に立ちます。その上で対立が発生しても暴力を使わずに平和的に解決する力が大切だと考え、その力を平和的問題解決能力と捉えました。そして、その育成を平和教育の柱としてきたのです。2018年にはその力を「他者の立場に立って、聞くことができる」、「他者の立場を尊重して、自分の考え方や思いを伝えることができる」、「多面的なものの見方や考え方ができる」という形で定式化しました。

平和教育を平和的問題解決能力の育成と理解しますので、それは狭い意味での「平和問題」や「戦争問題」をテーマとした授業に限定されません。それが「いつでも、どこでも、だれでもできる」平和教育の意味です。

近年、私たちは平和教育の実践を3つの領域に整理しています。第一の領域は平和教育の伝統である反戦教育です。これは戦争の悲惨さや残酷さを伝える教育です。戦争を経験した世代が教壇に立つことはもはやありませんが、若い先生方が資料や地域の方々の話をもとに、素晴らしい想像力を駆使して子どもたちに戦争の悲惨さを伝える実践が行われています。第二の領域は「もう一つの平和教育」と呼んできたものです。これは子どもたちが直面している問題を平和的に解決する力を養うものです。教室で起こっている「いじめ」

を考える授業、コロナ禍で友だちを大切にする心を育む授業などがこの領域の実践です。この領域の実践はどの教科でもできますし、学級活動や課外活動でもできます。第三の領域は国際連帯教育です。海外の文化を理解したり、海外の人のものの見方や感じ方を学んだりといった授業実践は、その代表です。こうした実践を通して多面的なものの見方を育てることができます。さらに環境破壊、貧困、紛争、難民など人類が直面している問題について学ぶ授業実践も含めることができます。この実践では国境の向こう側で起こっている悲惨なできごとを知るだけでなく、例えば私たちの飽食と貧困国の飢餓の関係を考えるといった、私たちと国境の向こう側にいる人々の関係を考えることも大切にしてきました。

今回の実践の中にはSDGsに関わるものもあります。SDGsに関わる実践は主として第三の領域との関係で整理されるものです。SDGsを扱う授業は日本でも急速に拡大していますが、私たちはSDGsと平和の連関を大切にしてきました。SDGsは単なる環境目標ではありません。「誰一人とり残さない」平和で包摂的な社会をつくる目標です。地球温暖化やゴミ問題といったSDGsが重視する環境問題を授業で扱う場合でも、私たちは平和の課題とのつながりを意識してきました。

このような領域から構成されているのが、私たちが推進している平和教育です。この『所報』を手にとられた人の中には、『所報』に掲載されている実践と同じような実践をした方もいると思います。平和教育とは「平和」「戦争」を特に強調するものばかりではありません。平和的問題解決能力の育成につながる実践は全て平和教育と言っても過言ではありません。『所報』をお読みになり「私の実践は平和教育につながるんだ」「もう自分は平和教育の実践をしているんだ」といった感想をもたれた方もいると思います。そのような感想をぜひ大切にしてください。

新型コロナウイルス感染症が終息したとしても、また人類はとても大きな課題にぶつかっていくことでしょう。また、今でも世界に目を向ければ罪のない人々が国を追われたり、残虐な方法で殺されたりしています。このような問題を他者と手を携えて解決していく力を育成することが平和教育の最大の目的です。その意味で平和教育を推進することは人類的課題でもあります。

この『所報』をお読みになった方が平和教育に関心をもち、その実践が広がっていくことを心から期待します。



平和と暴力の主体という自覚



共同研究者 加治宏基（愛知大学）

暴力と沈黙

2011年3月11日午後2時46分の震災やそれにともなう津波、火災、そして原発事故の第一報に触れたとき、どこで何をしていましたか。「黒板を消しながら、翌日のテストについて児童と話していた」「職員室へ戻り、ちょうどお茶を飲むところだった」など、先生方の多くがゆっくりと足元が揺らぐ感覚とともに、「あのとき」の景色や音、においを覚えているのではないでしょうか。人類は、歴史的イベントに遭遇した興奮や、記念すべき人生の節目で味わった感動、目標を達成した喜び、はたまた過ちを経験した悔しさ、そして哀しみを、フル回転させた五感とともに記憶してきました。

しかし一方では、忘れてしまいたい「黒歴史」もそれなりにありますよね。より正確にいえば、忘れることが生きていくために必要な場合だってあるのです。精神分析の創始者ジークムント・フロイトは、理不尽な暴力に遭遇した人は、それを語る言葉を失う傾向があり、無意識のうちにその経験を心の奥底に封印し、最終的には忘ることで平常を保ちうる心的メカニズムを解明し、それを「抑圧（repression/ verdrängung）」と称しました。

自然災害も含めて暴力なるものは、変幻自在に形を変え繰り返し私たちに襲いかってきます。そして、それを前にしたとき、被害を受けた人の多くは語る言葉を手放し、「なかったこと」にします。つまり、外部から強制されずとも自ら抑圧されることを選ぶのです。ただし、その“自発的な”沈黙もしくは忘却が暴力を前提とすることを、私たちは見過ごしてはなりません。

とりわけ戦争については、その凄惨な実体験や実態を語ることなく「墓場までもっていく」との決心を全うされた方も多く、歴史に埋もれてしまった史実は枚挙にいとまがありません。さらに、日本国民のうち戦後生まれが約9割を占める今日では、教育現場でリアリティをもった戦争体験を語り継ぐことはほぼ不可能です。それだけに、戦争の悲惨さを理解する反戦教育の意義は大きいと言えるでしょう。

暴力の主体の自覚

それとともに、「国際連帯と平和教育研究委員会」の共同研究者を昨年度に拝命して以来、本委員会が掲げる「もう一つの平和教育」（伊藤恭彦先生の2018－19年度『所報』巻頭言を参照）に即して、平和教育を通じて私たち・子どもたちに共有してほしい点を提起してきました。それは、私たち自身が日常生活において暴力を発動する主体となりうるとの自覚です。

今期の発足当初より、新型コロナウイルス感染症が世界的に広がりました。そのなかで、クラスターが発生するたびに「犯人探し」が横行し、感染者・濃厚接触者、ひいては医療従事者などエッセンシャルワーカーに対してさえも、偏見や差別が広がりました。また、ワクチン接種の有無などコロナ時代特有のものに限らず、人種や家庭環境など旧態依然と

したものを含めて、私たちの社会を分断する“活断層”が多く可視化されました。

かく言う私自身も、電車内で何度も咳やくしゃみをする人がいると反射的に、しかし過剰に反応し少し遠ざかったことがあります。こうした状況について、コロナ時代なので社会的緊張感が高まっており、そのリアクションとして様々な軋轢が新たに生じたんだと、自分たちを納得させることもできるかもしれません。

ただし、少し歴史を振り返ると、私たちの社会は同様の経験を繰り返してきたようです。二度の世界大戦後の復興とそれに続く高度経済成長の道をひた走るなかで、1920年代のイタイイタイ病（富山県）と1950－60年代には水俣病（熊本県）、四日市ぜんそく（三重県）、そして第二水俣病（新潟県）と、四大公害を引き起こしました。

身体的被害が出はじめると、得体の知れぬ「奇病」に怯える周辺住民の間では、「患者家族は祟られている」という流言が広まりました。被害者は身体が蝕まれていく恐怖を背負い、患者家族はこの病や患者を“恥”としてコミュニティで肩身の狭い思いを募らせ苦しめました。魚市場では、被害者やその家族が水揚げした魚介類の取引が敬遠されました。「食の安全」を求めて不安要素を排除すべきという“良識”が、じわじわと被害者家族の生活の糧を奪っていったのです。

そして、こうした暴力の構造は、公害被害地にとどまらず、時代を越えて、私たちの社会にも広がっています。安心・安全を求める“良識”は、ときに沈黙／忘却を強いるものです。

平和の主体の自覚

そうであるから、私たちが自らの暴力に対して自覚すること、同様に子どもたちや学生に自覚を促すことは、今日そして未来の平和の礎を築きます。2020年夏、田上富久長崎市長は、平和宣言のなかで「世界の人たちのために警告を発し続けてきた」被ばく者に対して、「敬意と感謝を込めて拍手を送りましょう」と呼びかけました。核兵器禁止条約の発効にむけた功績は、コロナ禍におけるエッセンシャルワーカーのそれと同じく、分断を超える原動力として賞賛されるものです。

人びとが互いに敬意を払い思いやりの姿勢は、国境を越えて共鳴します。そんなお互いさまの姿勢は、生態系や地球環境を“開発”対象としない環境保全の意識をはぐくみ、さらには持続可能な“発展”目標（SDGs）へつながります。

最後に、中国・武漢市在住の作家である方方氏が、都市封鎖が日常化しゆくなでの生活実感をSNSにつづった「武漢日記」の一部を紹介したいと思います。彼女の言葉は、本委員会が追求する「もう一つの平和教育」を支えるのは、やはり私たちの「正しい」良識なんだと、改めて教えてくれます。

ある国の文明度を測る基準は、どれほど高いビルがあるか、どれほど速い車があるかではない。どれほど強力な武器があるか、どれほど勇ましい軍隊があるかでもない。どれほど科学技術が発達しているか、どれほど芸術が素晴らしいかでもない。ましてや、どれほど豪華な会議を開き、どれほど絢爛たる花火を上げるかでもなければ、どれほど多くの人が世界各地を豪遊して爆買するかでもない。ある国の文明度を測る唯一の基準は、弱者に対して国がどういう態度をとるかだ。（2020年2月25日）

今期所員の先生方の教育実践からも、私は多くを学び大学教育に反映することができました。この場をお借りしてお礼申し上げます。



中国に対する意識改革 ～中国文化体験を通して～

私は、2016年4月～2019年3月の3年間、上海で生活しました。その3年間で、中国に対する抵抗感が無くなり、逆に好印象をもつまでになりました。それは、中国文化や中国人と実際に触れ合う経験からでした。

それならば、私が肌で感じた中国文化を子どもたちに紹介したり、子どもたちが実際に体験したりすれば、中国の理解が深まり、中国に対して良い印象をもつことができるのではないかと思いました。この研究をすすめることは、物事を正しく判断したり、よりよい人間関係を構築していくための素地を養うことにつながったりするのではないかと考えました。

◇ 授業の具体

道徳科学習指導案

指導者 小林 健二（富士市立岩松北小学校）

1 主題名 ちがいにまどわないで

内容項目 C 國際理解、國際親善

教材名 中国のことをもっと知ろう 自作教材

2 主題設定の理由

国際理解や国際親善は重要な課題であり、これらに柔軟に対応できる子どもたちにするためには、他国の人々や文化に対する理解と尊重する態度を養うことが求められる。

しかし、子どもたちは普段から他国の人々や文化へと気持ちが向いているとは言い難い。また、一部のメディア等による情報のみで、他国を判断してしまっていると思われる節もある。特に中国については、日常のニュースやインターネットの情報から推察すると、好印象につながるものが多いとは言えず、「中国は日本にとって良くない国」という印象を抱きやすい傾向にあるのではないかと考えられる。

そこで、中国の文化について知ったり体験したりすることで、中国に対し親しみを抱くことができ、理解を深めることになるのではないか、さらに本授業を通して、子どもたちに国際理解及び国際親善に努める気持ちを高めたいと考え、本主題を設定した。

各学年の児童の実態を把握するため、以下の通りに授業前後に意識調査を行った。

(1) アンケート調査

対象 2020年度 4年生 104人（有効回答数 101件）

2021年度 3年生 118人（有効回答数 113件）

1年生 89人（有効回答数 86件）

方法 授業前後に、アンケート用紙に記入する。（3・4年）

授業後に、質問項目に対し挙手する。（1年）

① アンケート結果（授業前）

【質問1】行きたい国はどこですか。（3・4年生のみ実施）

| 国名 | 人数 | 理由 |
|---------|----|---|
| アメリカ | 25 | |
| オーストラリア | 10 | |
| 韓国 | 8 | |
| ドイツ | 6 | |
| イタリア | 6 | |
| イギリス | 5 | |
| カナダ | 5 | |
| インド | 4 | |
| タイ | 4 | |
| フランス | 4 | |
| ブラジル | 3 | |
| メキシコ | 3 | |
| 中国 | 3 | |
| アイスランド | 2 | |
| エジプト | 2 | |
| ロシア | 2 | |
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・いろんな動物を見たい。 ・ゾウに乗りたい。 ・カレーを食べたい。 ・エビを食べたい。 ・世界遺産を見たい。 ・おいしいお菓子を食べたい。 ・辛い物を食べたい。 ・きれいな街並みが見たい。 ・ディズニーやビーチに行ってみたい。 ・お父さんが出張で行っていた国だから行きたい。 ・サッカーをしたい。 ・言語を覚えたい。 ・行ったことがあるからまた行きたい。 |

複数回答の国名のみ記載

【質問2】行きたくない国はどこですか。（3・4年生のみ実施）

| 国名 | 人数 | 理由 |
|---------|----|--|
| 中国 | 83 | |
| アメリカ | 39 | |
| 韓国 | 24 | |
| インド | 8 | |
| ケニア | 3 | |
| カナダ | 3 | |
| オーストラリア | 3 | |
| メキシコ | 3 | |
| モンゴル | 2 | |
| イタリア | 2 | |
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・日本と仲が悪いから。 ・変なものを食べるから。 ・コロナが心配。・言葉がわからない。 ・戦争が起こっているから。・空気が悪い。 ・日本の敵になる。ニュースを見ていても怖い。 ・銃をもっているから。 ・事故がいっぱい起こるから。 ・わらでできた家に住むのは嫌。 ・貧しい暮らしをしているから。 ・家族が危ないといっているから。 |

複数回答の国名のみ記載

アンケートから、本学級の児童の「国際理解」についての実態を次のように分析した。外国に対する興味・関心は高い。それは、オリンピック・パラリンピック、新型コロナウイルス感染症等、最近の世界中を巻き込む大きな出来事も起こっているため、情報として入ってくることによるものではないかと思う。ただ、外国、とりわけ中国には良い印象をもっていないこともうかがえる。それは、テレビやニュースの報道、家族などからの影響もあるのではないかとも考えられる。

このことから悪い情報が先行していくことよりも、良い情報や日本とのつながりを示し、国際理解に努める気持ちにさせることが必要であると考える。

指導にあたり、導入では事前にとっていたアンケート結果を提示し、児童の「行ってみたい国」「行きたくない国」「理由」を発表する。自分の憧れの国を思い浮かべたり、他国についての不安感をとり上げたりする。その中で、中国に対して良い印象を抱いていないことをとり上げ、中国に関心を寄せるようにしていく。そしてその流れの中で、中心発問へとすすんでいく。

次に、中国が由来の物事を紹介したり、中国に関するクイズや日本との違いを提示したりしていく。対象が1年生の時は、中国語の数の数え方について、指を使ったり発音したりしながら、中国文化に触れていくようとする。こうした活動の中で、実は中国は思った以上に親しみやすく、また、近い存在であることに気づくであろう。さらに、ジンズを体験したり、中国雑技の動画を視聴したりすることで、中国にも楽しいことがいくつもあることを知り、中国への理解を深めていくだろう。

最後に、改めて中心発問をし、最初に抱いていた中国に対する印象が本物だったのか考えさせる。物事は、すべてわかった上で判断していくことが大切であること、そしてそれは、国に対するだけではなく、人に対しても同様のことが言えることである、ことにふれ、まとめとしたい。

② アンケート結果（授業後）

【質問1】授業を受けて、中国に行きたくなったか。

| | 1年生 | 3年生 | 4年生 | 主な理由 |
|---------|-------|-------|-------|--|
| 行きたくなった | 50.0% | 77.9% | 83.1% | <ul style="list-style-type: none">・中国の芸がすごくて、実際に見たくなった。・世界遺産を見てみたい。・中国で、中華料理を食べてみたいから。・もっと中国のことを知りたいと思ったから。 |
| 変わらない | 48.8% | 18.6% | 14.8% | <ul style="list-style-type: none">・まだ少ししか知らないから。・コロナが心配だから。 |
| 行きたくない | 1.2% | 3.5% | 2.0% | <ul style="list-style-type: none">・反日運動やコロナが心配。 |

【質問2】中国について初めて知ったことや、良かったと思ったことは何か。

| | |
|-----------|--|
| 3学年 共通 | <ul style="list-style-type: none">・中国雑技がすごいと思った。変面について調べてみたい。・中国には、いろいろな有名な建物や、料理など、見所がたくさんあるということ。・中国人は日本人を好きな人が多いということ。・中国と日本では、数を数える時に違いがあるということ。・日本には、中国から伝わってきたことが多くあることを知った。・やってみて楽しかったからジンズをもっとやってみたい。・中国人は、日本のアニメが好きであるということ。・中国のイメージが変わった。悪いと思ったけど、良い国だと思った。 |
|-----------|--|

3 本時の指導

(1) 本時のねらい

中国についてよく知らない子どもたちが、日本と中国とのつながりを知ったり、中国文化を体験したりする活動をし、中国に対する理解を深め、親しみを感じることを通して、物事を正しく判断する力や、よりよい人間関係を構築していく力を育てる。

(2) 指導過程

| 段階 | 学習活動と予想される子どものあらわれ | ○留意点 |
|------|--|---|
| つかむ | <ul style="list-style-type: none"> ○事前アンケートの結果を提示する。 <ul style="list-style-type: none"> ・聞いたことがある国ばかりだな。 ・オリンピックでいろんな国旗を見たよ。 ・やっぱり中国とアメリカは行きたくない人が多いな。 <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> 中国について知って、中国についてもっと理解しよう。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ○中国について知ろう。(写真①) <ul style="list-style-type: none"> ・中国って広いな。 ・事故が多い国だよね。 ・コロナのことでもニュースになってたよ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> 中国は日本にとって本当によくない国なのかな。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ○中国文化を知ろう。体験しよう。 <ul style="list-style-type: none"> ・漢字や食べ物が日本に伝わってきたのか。日本とつながっているね。(資料①) ・中国語も読める漢字があるね。(資料②) ・十二支は、日本とは猪と豚が違うんだね。 ・ジェンズを初めてやったけど楽しいね。(写真②) ・数の数え方が日本と少し違うね。(資料③) ・変面は驚いた。いつ顔が変わったの。 <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> 中国は日本にとって本当によくない国なのかな。 </div> | <ul style="list-style-type: none"> ○提示しながら、自然と中国に関心を寄せるように促していく。 <p>[10] 人や国の不平等をなくそう。 [16] 平和と公正をすべての人が、SDGsの目標のゴールであることを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○中国は悪い国だという雰囲気があっても、無理に制止することはしないようとする。 ○子どもの反応に合わせ、話をすすめたり掘り下げたりする。 ○中心発問の際は、全体が集中するようにする。 ○日本と中国は近い存在であることに意識を高めていけるようにする。 |
| 深める | <ul style="list-style-type: none"> ○事後アンケートをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・中国のことは知らないことが多かったよ。 ・雑技はすごい。本物を見てみたい。 ・中国の人は、日本人を好きな人が多くてうれしかった。 ・中国に行ってみたくなったよ。 ・家族にも話をしてみよう。 | <ul style="list-style-type: none"> ○簡単に善悪の判別をするのではなく、よく知りよく考えることが大事であることを伝える。(資料④) ○再度、中心発問を投げかけ、考えるようとする。 ○1年生は、教員が質問して、子どもが挙手をするようにする。 |
| まとめる | | |

4 授業の成果と課題

(1) 成果

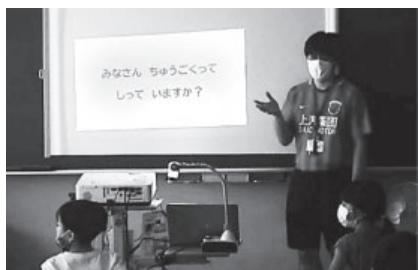
- ・授業の前半では、中国に対して、負の発言が多く聞かれたが、授業後のふり返りでは、中国に行きたくなったと答える児童が増えた。今回伝えた情報以外の、中国の良い情報をさらに伝えていけば、中国に対してもっと良いイメージをもったり、行きたくなったりするのではないかと言える。正しい情報を日頃から伝え、判断させていくようなことが大切だと感じた。
- ・45分間という短い時間でも、心境の変化が出たという結果から、写真や、動画、体験は子どもたちに与える影響が大きいと言える。
- ・外国についての内容は、3、4年生ならまだしも、1年生には難しい題材かと思われたが、どの学年でも、相応に考えることができると感じた。
- ・授業後日、『変面』について調べてきたり、家族が所持していた中国のお金を友だちに紹介したりする子などがいた。本授業が、子どもたちにとって良い刺激となっていたのだろうと思う。
- ・中国文化の紹介や体験の際、口頭で伝えることや、写真を提示することだけでなく、手を使う、動画を見る、クイズ形式にすることなどをとり入れたことで、子どもたちの反応は良かった。
- ・予想していた以上に、「中国に行きたくなった」という児童がいて、とても驚いた。また、ふり返りより、動画や、考え方などが好印象になることは予想できたが、「中国人は日本人が好き」という項目の割合が高かったことは、予想外だった。

(2) 課題

- ・今回の授業では、中国の好印象となる情報を多く伝えたため、子どもたちの心境がプラスに変化していったのではないかと思われる。子どもたちが公平に判断できるように、与える情報については、中国の良い面・悪い面の両方を示したり、日本との比較資料などを提示したりするなど、精選や検討が必要であると感じた。
- ・授業後、1年生が収穫したアサガオの種をプレゼントしてくれた。アサガオも中国から伝来したものであるため、1年生に紹介する内容の一つにすれば、他教科と関連させることができるなど、横断的な学習ができたり、子どもたちの違った反応が見られたりしたのではないかと感じた。さらに、中国を紹介する際に、アニメソングの中国語ver.などを流すことも興味や関心を高める材料として効果的だったかもしれない。また、事前に、中国に対する印象や知っていることなども聞いておくと、授業に生かせ、主体的な学びにもつながるのではないかと思った。
- ・1年生には予備知識があまりないと思っていたため、また、時間的にも厳しかったため、事前アンケートを実施しなかった。しかし、少し時間がかかってもアンケートを行う方が、1年生の変容が見られ、よかったです。

5 資料等

(1) 授業の様子



写真① (授業中の様子)



写真② (ジェンズ体験)

(2) 提示資料

中国から 日本に つたわった もの



おりひめとひこぼし

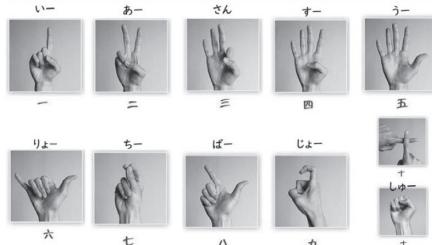
資料①

中国語→日本語

- | | |
|----------|---------------|
| ①上海迪士尼乐园 | ①上海ディズニーランド |
| ②麦当劳 | ②マクドナルド |
| ③手机 | ③携帯電話 |
| ④力保健 | ④リボビタンD |
| ⑤星巴克咖啡 | ⑤スター・バックスコーヒー |
| ⑥面包 | ⑥パン |
| ⑦厕所 | ⑦トイレ |



資料②



資料③

「好き」か「きらい」か、「良い」か「悪い」かは、
すべて分かったら
言えることです。
まずは、**相手**のことを
よく知り、理解することが
大切ですね。



資料④

◇ 2年間の研究を振り返って

今回の研究期間中、東京オリンピック開催、新型コロナウイルス感染症の拡大など、例年にない、世界中に大きな影響をもたらす出来事があった。子どもたちの話題の中からも、「オリンピック」「コロナ」というワードが自然に出てきていた。子どもたちが必然的に世界への関心を高めていたと感じている。

そんな中、日本の報道やインターネット上に出てくる「中国」についてのトピックスは、否定的であり、マイナスイメージを与えるようなものが多いことを感じた。これでは、中国に対して良い印象を抱くことができない。しかし、良い情報ばかり流すことも良いというわけでもない。大人が子どもたちに与える情報は、偏ったものであってはいけないということを、研究を通じて強く感じた。それは今回、私自身が提示した情報についても同様のことが言える。今後も、自分自身ももっと研鑽し、内容を精選したものを、子どもたちに届けていきたいと感じている。

出典

- ・中華人民共和国基礎データ（外務省）
- ・日中世論比較結果（言論NPO）
- ・副読本 上海



低学年から考える食品ロス

テレビCMやポスターなどSDGsが社会全体に知られるようになってきました。しかし、日本国内では未だに年間643万トンという大量の食品ロスが出てています。この現状を受けて、様々な企業が食品ロスを解消しようと、フードバンク等のとりくみをしています。

子どもたちを見ていると、何気なく残したり、床に落としたとしても気にしなかったりするなど、食に対する関心が薄いと感じています。残ったものはどうなるのかを知ったり、食品ロスを減らすにはどうしたらよいかを2年生なりに考えたりして、子どもたちの食に対する関心を高めるとともに食品ロスをなくしていくこうとする思いをもたせたいと考えました。

◇ 授業の具体

学級活動 学習指導案

指導者 寺田 祐基（河津町立西小学校）

1 題材名 「食品ロスをなくすためにできること」

2 題材設定の理由

学校給食の様子を見ていると、安易に減らしたり、食べ残したりしている様子が見られた。家での食事で残したことがあるかを子どもたちに尋ねると、9人中6人が残したことがあると答えた。理由として挙げられたのは、「嫌いなものだったから」である。好き嫌いがあるのは当然のことではあるが、安易に残そうとしたり、床に落としたりしても気にも留めない態度に違和感を覚えたと同時に子どもたちの食に対する関心の低さが見てとれた。

小学校低学年から「食品ロス」を知り、なくすための方法を考えていくことで、食に対する関心を高められるのではないかと考えた。また、学年が上がったときに、食品ロスをなくすために、周りに対してどんなことができるのか考えられるようになっていくことが期待できる。そのため、本題材の学習を通して、自分事として食品ロスを受け止め、食に対する関心を高められるようにしたい。

3 本時の指導（1／1）

（1）本時のねらい

日本や自分たちの食品ロスの実態を知り、食品ロスをなくす方法について話し合うことを通して、食品ロスに向けて自分なりにできることを考え、実践できるようにする。

(2) 指導過程

| | ・予想される子どもの活動 ◇教員の働きかけ | ●留意点 評 |
|------|---|--|
| つかむ | <p>◇日本の1年間の食品ロス量を提示する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なにこれ？ ・食べ物に関係あるの？ <p>◇日本で1年間に捨てられる食品の量であることを伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こんなに捨ててるんだ。 ・もったいない。 <p>◇「AC JAPAN おむすびころりん」を視聴する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一億個って教室うまっちゃうんじゃない？ ・一日でもそんなに捨ててるんだ。 <p>◇家や弁当の食べ残しはあるのかをふり返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お弁当なら残さないかな。好きなものが多いし。 ・家でも残すときがあるな。 <p>◇「食品ロス」を押さえる。</p> <p>◇6月の残食量を示し、食品ロスに含まれることを伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラス9人で471個も棄ててるんだ。 <p>食品ロスをなくすために、どんなことができるか。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ●「グラム」とは重さを表す単位であること、数値は食べ物に関する情報を伝える。 ●量が膨大であるため、イメージがわきにくい。1日に捨てられる量を示したACのCMを流す。 ●家庭や弁当での残食についてもふり返ることで、自分たちも食品ロスにかかわっていることを伝える。 <p>【思考・判断・表現】 どうしたら食品ロスを無くすことができるのかを考えている。</p> |
| さぐる | <ul style="list-style-type: none"> ・食べる前に減らさない。 ・食べられるなら、増やす。 ・苦手なものでも、全部食べる。 ・全部は減らさないけど、時間までに食べ終わる分だけにする。 ・残さない。 ・最初から食べられる分だけにする。 ・もったいないから、食べきれない分は買わない。 <p>◇企業ではどんなことをしているのか紹介する。</p> <p>フードバンク、フードロス対策自販機、学校給食への提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マックスバリュって河津にもあるよ。 ・いつもより安いなら買いたいな。 ・昼の放送でコロナで譲ってくれたって言っていたな。 <p>◇食品ロスをなくすために、自分にできることを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お皿にのっている分は絶対食べる。 ・食べられそうなら、増やす。 ・苦手なものもがんばって食べる。 ・最初から多くしないで、自分の食べられる分だけにする。 ・賞味期限が近くなったら、早く食べる。 | <ul style="list-style-type: none"> ●すべて食べきることが理想であるが、体格や食の細さなどに違いがあるため難しいことを問い合わせし、無理に食べる必要はないことに気づくことができるようとする。 ●企業の食品ロス対策を紹介することで、賞味（消費）期限についても触れる。 ●「自分なりにできること」を決め、とりくめるようとする。 <p>【思考・判断・表現】 自分なりに食品ロスをなくすためにできることを決めている。</p> |
| 見つける | | |
| 決める | | |

4 授業の成果と課題

(1) 2年生での実践

○自分事として考える態度

自分たちが食べ残しをしたり、食べ物を捨ててしまったりしていることに気づいている子どもたちに、授業の導入で、日本国内で出される食品ロスの量（643万トン）を提示すると数字の大きさに驚いていた。実際に捨てられている量をおにぎりという身近な食べ物に置き換え、「AC JAPAN おむすびころりん」を視聴することで、具体的な量をイメージすることができた。さらに、6月の給食の残食量【資料1】をおにぎりで示すことで、「もったいない」「こんなに捨てられているなんて知らなかった」と自分事として考えようとする態度に繋がった。

▲「給食」からの脱却

2年生にとって身近な給食の食べ残しをとり上げた。6月の給食の残食量を示したり、給食センターの栄養士の話を聞いたりするなどしたが、大部分の子どもたちにとっては、「給食を残さない」という意識になってしまった。

子どもたちの発達段階を考慮して、世界の食糧援助量や環境問題については触れなかつたが、普段の食事とつなげるためには、必要な要素であったと感じる。また、食糧援助量について押された上で、「すべての人たちが食べれるようになったとして、食品ロスはあってよいのか」と子どもたちの道徳心に訴え問い合わせことで、生産者の立場にも目を向けることができた。これにより、さらに食に対する関心を高め、給食だけでなく、普段の食事について考えていく態度を養うことができたのではないかと感じた。

(2) 5年生での実践

2年生は、今回初めてSDGsについて考える学習を行った。昨年度ごみ問題を通してSDGsについて学習している5年生では、「食品ロス」に対して、どのような考え方をもつのか、同様の指導過程で2年生との比較をしようと実践を行った。

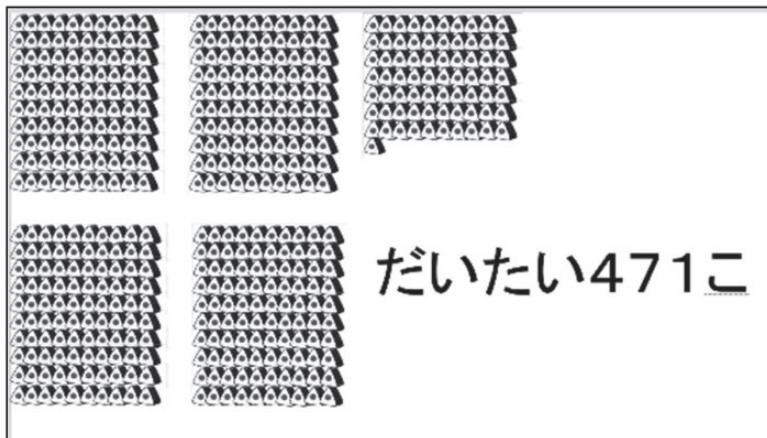
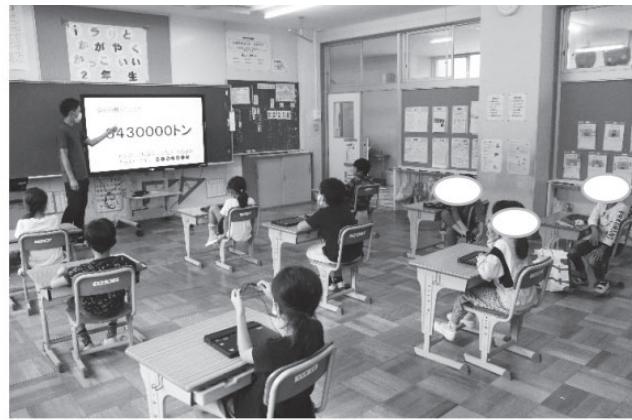
○他者への働きかけという視点

2年生では、自分にできることを考えたときに、「食べ残しをしない」「賞味期限が近いものは早めに食べる」等の意見が挙げられた。それに対して5年生では、周りにどのように働きかけることができるのかと考える子もいた。

5年生では、社会科を学習しており、コンビニエンスストアの発注数が減っていることや世界の食糧援助量などの資料を提示したことで、他者に対する働きかけを考えることができた。

5 資料等

写真1



資料1

【子どもの感想】

(2年生) 9人

- ・たくさん食べ物が捨てられていることがわかった。ごはんの米粒を一つ残らず食べたい。

(5年生) 16人

- ・例えばレストランとかだったら、残ったものを持ち帰るとか、サービスで配るとかできそう。魚や動物のえさにすることもできそう。
- ・賞味期限が近いものを買うようにしたい。コンビニ等で、賞味期限が近いものを買ってもらえるように、配達などのサービスがあるといい。

◇ 2年間の研究を振り返って

所員として活動してきた2年間では、どんな実践をしたら「ものや食に対する関心」を高めることができるのかという視点で研究をすすめました。

今回の実践では、食育と食品ロスとの兼ね合いに悩みました。給食では、子どもが成長するのに必要なエネルギー量を確保するために量が決まっています。しかし、子どもには個人差があり、給食を食べ切れないことはしばしばあります。そのため、実践中でも無理をして食べることがいいことなのではなく、みんなで食品ロスをなくしていくことを大切なのだと伝えてきました。食品ロスがなくなることで、より多くの人に食べものが行き渡るようになります。世界には食糧援助を求める人々が、まだまだいるのが現状です。今後もSDGsを意識した実践をし、子どもたちがよりよい未来に向かって努力していけるようにしていきたいと思います。

平和的に問題を解決する力を育てるために

戦争は残酷であり、悲惨である事実は変わりません。争いごとが続いていく未来を生きる子どもたちに、平和的に問題を解決する力を持つことが本研究委員会のねらいであるとの、共同研究者の話を受けて、実践を試みました。

平和的に問題を解決する力を身につけるための素地として、小学校低学年の子どもたちには、相手を思いやる心情、そして異なる他者を理解しようとする態度が必要ではないかと考えました。

◇ 授業の具体 I

道徳科学習指導案

指導者 齊藤 尊（伊東市立旭小学校）

1 主題名 「思いやりの心で」 B—（6）親切、思いやり

2 題材設定の理由

(1) 児童について

子どもたちは新型コロナウイルス感染拡大防止のための対策として、休み時間や体育の授業以外はマスクを着用すること、給食は黙って食べることなどの生活に慣れてきている。休校明けの際には、どこか元気のない、暗い表情が多くなった。友だちと関わることのできない時間が長かったことや、マスク着用のため他者の表情を読みとりにくいためか、以前のように他者へ自分の考えを伝えることを遠慮したり、怖がったりする様子もあった。また、運動会をはじめ、他者との関わりを通して、成長できる行事等も縮小、または中止になることで、子どもたちの楽しみは減る一方であった。しかし、これまでと同じように、友だちと過ごす時間を笑顔で過ごす姿が見られた。

(2) ねらいについて

思いやりとは相手の立場をおしはかり、自分の思いを相手に向けることである。そして、それは、あたたかく見守り接することや相手の立場に立った励まし、援助を含む親切な行為などとして表れることが期待される。そこで、身近な友だちによって、自分が成長できたり、生活がより楽しいものになっていたりすることに気づき、あたたかい心で接し、親切にしようとする気持ちを高めていきたい。

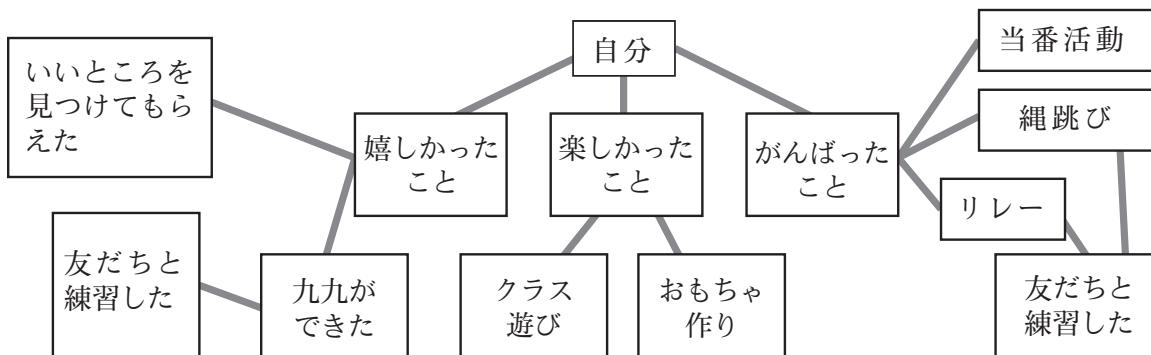
3 本時の指導

(1) 本時のねらい

よいところを見つけたり、困っていたらすんで助けたりと、友だちは大切な存在だと考えている子どもたちが、自分たちの生活の楽しかったこと、うれしかったこと、頑張っていることには友だちが関わっていることをふり返ることを通して、友だちの存在の大切さに改めて気づき、困っている他者には、思いやりの気持ちをより一層もって関わろうとする心情を高める。

(2) 授業展開

| ○学習活動 | 留意点・支援 | ・課題の意図 | ☆ | ・評価 |
|--|--------|---|---|-----|
| ○クラスの友だちが新型コロナウイルスに感染したら、どんなことを考えますか。 | | | | |
| ・自分もコロナに感染しているかも。 ・家族にうつっていないか心配。 ・これで楽しいことが、また無くなるかも。 ・お楽しみ会はどうなるかな。 ・友だちと遊べなくなっちゃう。家で一人は嫌。 | | ・誰でもうつる病気だから仕方ない。 ・友だちは大丈夫かな。死んでしまったりしないかな。 ・みんなにごめんねって気持ちかな。 | | |
| ○新型コロナウイルスはどんな病気なのか確認しよう。 | | | | |
| ・誰でもうつってしまう病気。 ・知らないうちにうつってしまう。 ・うつると死んでしまうかもしれない。 | | | | |
| ○新型コロナウイルスの心配がたくさんになってしまったよね。その心配によって、身の回りで、どんなことが変わりましたか。 | | | | |
| ・マスクをつけなくてはいけなくなった。 ・みんなの顔が見られない。 ・どきどきする。 ・給食の時に、一人で食べなくちゃいけないし、お話もできないし、楽しくない。 ・習い事の大会や遠足など、楽しみにしていたことがなくなった。 ・友だちとたくさん遊べなくなった。密にならないように気をつけなくちゃいけないから、やりたい遊びができない。 | | | | |
| ○休校明けの子どもたちの楽しそうにしていたり、頑張っていたりする場面の写真を提示する。 | | | | |
| ○これまでの楽しかったことや嬉しかったこと、がんばったことなどをふり返ろう。 | | | | |
| | | | | |



なかなかイメージを膨らますことができない子どもには、一緒に写真を見ながら楽しかったことや、嬉しかったこと、頑張ったことをふり返られるようにする。

みんなの「頑張ったこと」「嬉しかったこと」「楽しかったこと」はどんなこととつながっているのか。

自分たちの生活に友だちが多く関わっていることを気づくための発問。

☆図を見て気づいたことが出ない場合には、子どもの図をとり上げ、出された事柄の多くが、友だちとつながっていることを確認できるよう、友だちに関わる事柄に丸をつけるようにする。

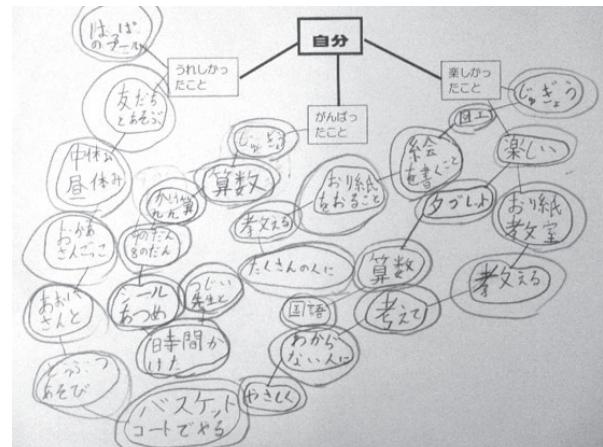
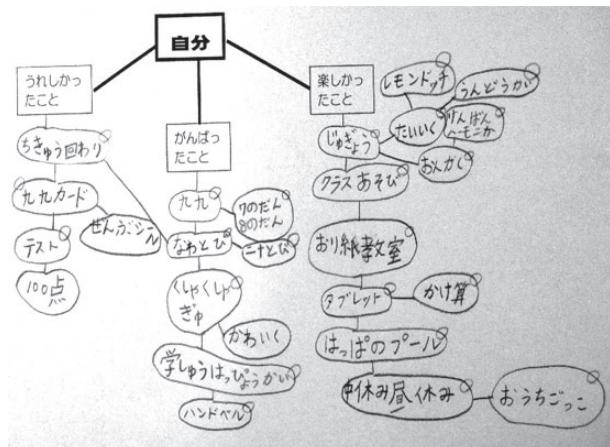
- ・楽しかったこと、嬉しかったこと、頑張ったことは全部友だちとつながっている。
- ・自分一人よりも、友だちと一緒に頑張りました。
- ・友だちがいるから、楽しいし、嬉しいし、頑張れることがわかった。
- ・友だちって大切なんだとわかった。
- ・その友だちがコロナになったらどうしたらしいかな。

○「友だちが新型コロナウイルスに感染したときに、大切にしたいこと」を書きましょう。

- ・手洗い、マスク、思いやりの距離をしっかりやっていきたい。
- ・友だちは大切だから、楽しいことがなくなても我慢する。
- ・友だちが元気がなかったら、「大丈夫だよ」と励ます。

友だちの存在の大切さに気づき、困っている他者には思いやりの気持ちをよりいっそうもって関わろうとする心情が高まったかどうか、活動の様子やワークシートの記述から評価する。

4 授業の反省と評価



(1) 子どものふり返り（一部）

- ・友だちがコロナになったら（悲しいだろうから）慰める。
- ・友だちは一緒に協力した仲間だから、友だちがコロナになると悲しいけれど、その協力を忘れないで、友だちを大切にしたい。
- ・自分が友だちと協力したことや、友だちと一緒に頑張った大切な時間を絶対に忘れない。
- ・優しい言葉を掛ける。「おまえコロナ」とか、絶対言わない。

(2) 成果と課題

新型コロナウイルスに感染した友だちの気持ちを思いやる発言、ふり返りの記述が見られた。新型コロナウイルスの感染についてを題材にすることで、これまで当たり前に考えていた友だちの存在について改めてふり返ることができ、友だちの大切さに気づくことができた。また、授業後に行った、子どもたちの自治的な活動では、密にならないような活動を計画したり、意識して活動を行ったりすることができたのは成果であると考える。

また、「友だちが新型コロナウイルスに感染したときに、大切にしたいこと」という発問の仕方が、子どもたちに感染予防のための実践的な方法を連想させてしまったことが課題としてあげられる。子どもたちに投げかける言葉の吟味が、これまで以上に必要であると感じた。

◇ 授業の具体Ⅱ

道徳科学習指導案

指導者 齊藤 尊（伊東市立旭小学校）

1 主題名 「日本と外国も同じ」 内容項目 C 「国際理解、国際親善」

2 題材設定の理由

(1) 児童の実態

本学級には、2020年度インドネシアから帰国したAという児童がいる。Aは服装、食べ物等が異なるが、周りの子どもたちはそのことを受け入れている雰囲気が見られる。しかし、アンケートによると、学校生活以外の場で、子どもたちは他国の人々とすんで関わる経験が少なく、他国への興味・関心も高くないことを感じた。そこで、低学年がとりくみやすく、追体験しやすい遊びをきっかけにすることで、外国の文化について考える機会にしていきたい。外国にも、様々な遊びが存在する。子どもたちは、それが日本の遊びなのか、外国の遊びなのかを、あまり意識せずに遊んでいる。外国のどの遊びも、日本の遊びと共通点があるものが多い。その共通点や相違点から外国の遊びに興味をもとうとする心情を育てていきたい。

(2) ねらいについて

グローバル化が進展する今日だからこそ、他国の文化に対する理解と、これらを尊重する態度を養うことは大切である。日本と他国の文化は異なるが、共通点も多い。それらのことをしっかりと理解した上で、他国の文化に興味をもち、他国の人々と親しもうとする心情を育てたい。

3 本時の指導

(1) 本時のねらい

世界と日本の遊びの共通点や相違点を考えたり、話し合ったりすることを通して、もっと世界のことを知りたいという、他国の人々や文化に親しもうとする心情を高める。

(2) 授業展開

| ○学習活動 | 留意点・支援 | ・課題の意図 [☆] | ・評価 | | |
|--|--------|---------------------------|-----|--|--|
| ○外国の遊びを知っていますか。 | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none">・知らない・サッカーはカタカナで書くから外国の遊びかな。・鬼ごっこでも、バナナ鬼は外国の遊びかな。 | | | | | |
| 外国で行われていることを子どもたちにわかりやすく伝えるために、「ぞうけん」の遊びのルールを A と一緒に説明する。 | | | | | |
| ○どれが日本の遊びで、どれが外国の遊びかわからないみたいですね。 | | | | | |
| 外国の遊びをやってみよう。 | | 写真 1 | | | |
| <ul style="list-style-type: none">・楽しい。・何を出したらいいのかわからないので、難しい。 | | | | | |
| 外国の遊びをやってみてどんなことを思いましたか。 | | 外国の遊びと日本の遊びに共通点に気づくための発問。 | | | |
| <ul style="list-style-type: none">・日本の遊びとよく似ています。・「ぞうけん」はじゃんけん、「ホットポテトゲーム」は爆弾ゲームに似ていると思います。・「ホットポテトゲーム」は熱いジャガイモ、爆弾ゲームは爆弾というところが違うだけで、ルールが似ているね。・じゃんけんのゲー・チョキ・パーが、「ぞうけん」の象、人、蟻なのかな。・日本の方方が分かりやすい。・それはいつもやっているじゃんけんと違うからじゃないかな。・僕は初めてやったから、面白かった。・私も世界の遊びをやってみたいと思った。・もっと世界の遊びをやりたくなりました。 | | | | | |
| ○外国の遊びをしたことありますか。やったとき、どんな気持ちになりましたか。 | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none">・私は幼稚園の時、ロンドン橋をしました。歌の最後の「マイフェアレディー」のところで、捕まらないようにどきどきしました。外国にも楽しい遊びがあるんだなと思いました。・僕は、外国の遊びをしたことがなかったけど、今日の授業で楽しいものだと知りました。外国人ともやってみたいです。 | | | | | |
| ○教員の説話を聞く。 | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none">・オセロは外国から来たゲームであること、外国人と一緒にオセロを行うことで、仲良くなれたことを伝える。 | | | | | |
| もっと世界のことを知りたいという、他国の人々や文化に親しもうとする心情を高められたかどうか、活動の様子やワークシートの記述から評価する。 | | | | | |

4 授業の反省と評価



写真1

(1) 子どものふり返り（一部）

- ・「ぞうけん」の蟻が象に勝つというルールが面白い。
- ・「ぞうけん」は日本のじゃんけんとルールが似ていて楽しくできた。もっとやりたいです。
- ・「ロンドン橋」や「子犬のbingo」など、外国の遊びをもっとやってみたい。
- ・夏休みに図書館に行って、外国の遊びを探して、みんなと遊びたいと思いました。

(2) 成果と課題

子どもたちは、外国の遊びをこれまでの遊びとルールが多少異なることに戸惑いながらも、楽しく活動することができた。また、今まで経験したことがないルールを受け入れ、そのことを自分たちの楽しみに変えていく子どもたちの柔軟性に感心した。授業を通して外国の遊びに興味をもって、今後も外国の他の遊びをすすんで調べてとりくんでみたいという考えをもてたこと、また A が滞在していた国の文化についての関心を高め、A にすすんで質問をする姿が見られたことは成果と考える。また、友だちからの質問に対し、A も自分が行っている習慣について、興味をもつきっかけにもなった。今後も、子どもたちに見られた姿を深めることで、より他国の人々や文化に親しむことができるようにしていきたい。

◇ 2年間の研究をふり返って

国際連帯と平和教育研究委員として活動した2年間は、小学2年生の担任をしていました。実践にとりくむ中で、低学年の子どもたちが、平和的に問題を解決する力を身につけるために、どんなことが必要なのかを考えるようになりました。明確な答えはまだ出ていませんが、他者の立場を尊重して関係を築くことができる、多面的なものの見方や考え方をもてるようになることを、これまで以上に日々強く意識して、子どもと関わることができるようになりました。

また、2年間で共同研究者の様々な実践や話を聞くことを通して、参考になることが大変多く、見識を広げることもできました。これらの経験を生かし、未来に向かって成長していく子どもたちのために、今後もとりくんでいきたいと思います。



エネルギー問題について考える

地球規模の様々な問題について、国連で採択されたSDGsには「7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに」という目標があります。化石燃料などのエネルギー資源は有限であり、子どもたちに今後のエネルギー問題について考えるきっかけにしたいと思いました。本単元を通して、子どもたちが様々な発電方法について資料を正しく読みとり、エネルギー問題について自分の考えをまとめていくことをめざし、実践しました。

◇ 授業の具体

社会科學習指導案

指導者 富田 由美（牧之原市立相良小学校）

1 単元名 電気はどこから

2 単元目標

電気を供給する事業は、安全で安定的に供給できるようすすめられていることや、地域の人々の健康な生活の維持と向上に役立っていることを理解する。 【知識・技能】

供給の仕組みや経路、県内外の人々の協力などに着目して、電気の供給のための事業の様子を捉え、それらの事業が果たす役割を考え、表現する。 【思考力・判断力・表現力】

電気を供給する事業について、主体的に学習問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え、学習したことを社会生活に生かそうとする。 【主体的に学習にとりくむ態度】

3 単元計画

| | 教員の働きかけと予想される子どもの活動 | 留意点 |
|---|---|--|
| 1 | <ul style="list-style-type: none">○暮らしの中で使う電気について、知りたいことや疑問に思ったことを話し合おう。・どうして電気はいつでも使えるの・どうやって、だれが、電気をつくっているの・電気がなくなることはあるの | 電気と自分たちのくらしとの結びつきに着目し、電気の供給について調べるための学習問題をつくり、見通しをもつ。 |
| 2 | <ul style="list-style-type: none">○どこから電気は送られてくるのかな・電線で繋がった先から電気が通ってくる・浜岡に原子力発電所があるよ。そこから電気がきているんじゃない？ | 実際に屋上から見てみることで、電気がどこからくるのか予想をたてる。 |
| 3 | <ul style="list-style-type: none">○発電所ではどんなことをしているのだろう・発電所では電気をつくり、送電線、変電所などを経て電気を送っている・いろいろな種類の発電方法がある <ul style="list-style-type: none">○発電の方法によってどんな違いがあるんだろう・それぞれの発電の方法のいいところ（長所）と、困るところ（短所）を考える | 電気を安定供給するための計画的なとりくみや、5種類（原子力・火力・風力・水力・太陽光）の発電の特徴や仕組みについて理解する。 |

| | | |
|----------------|--|--|
| 4 5 (本時) | <ul style="list-style-type: none"> ○生活に必要な電気をこれからもつくり続けるために、どんな発電をしていいんだろう（様々な長所と短所がある発電方法の中でどの方法を選択することがいいのかを考え、意思決定する） ・電気をつくるのにはたくさんの資源が必要 ・地球温暖化などの問題にも関わる ・安全性を大切にしたい ・自然エネルギーばかりでは安定しない <p>⇒安定した生活のためには、たくさんの努力があって電気がつくられている</p> | 発電方法について更に詳しく調べ、今後の発電について自分なりの意見をまとめ、意思決定する |
| 6 | <ul style="list-style-type: none"> ○これからも電気を大切に使っていくために、わたしたちにできることは何だろう ・電気を無駄にしないよう、節電をする ・節電方法を考える | 電気がたくさんの人の努力によって安定供給されていることを知り、自分たちにできる電気を無駄にしない方法を考える |
| 7 | <ul style="list-style-type: none"> ○節電の効果についてふり返ろう ・アースキッズチャレンジとあわせて、節電にチャレンジし、その効果のふり返りをし、まとめる | 節電の効果をふり返りつつ、学習問題についてわかったことをまとめること |

4 本時の指導（5 / 7）

(1) 本時の目標（ねらい）

発電方法について更に詳しく調べたことをもとに、今後の発電について資料を基に自分なりの意見をまとめたり、他者の意見を聞いたりする活動を通して、これからの発電方法について意思決定してまとめることができる。

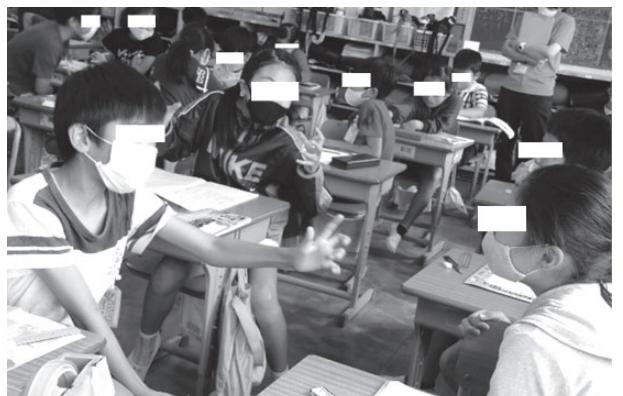
(2) 指導過程

| 時 | 学習活動 | ◇留意点 ◇評価 |
|------|---|--|
| 前時まで | <ul style="list-style-type: none"> ○5つの発電の仕組みと、いいところや困ったところをまとめた紙を見て、もっと調べてみたいことはあるかな。 ・火力発電は二酸化炭素がどれくらいでるんだろう ・火はどうやってつけているのかな ・5つ以外にも発電の方法はあるのかな <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">発電方法についてもっと詳しく調べよう</div> <p>本・パンフレット・インターネット・インタビューで調べる</p> <ul style="list-style-type: none"> ○調べたことを共有する ○いろいろな発電方法にはデメリットもある。でも電気は生活に必要。これから的生活に使う電気はどの方法で作ればいいんだろう。 <p>⇒ノートに自分の考えをまとめておく</p> | <p>◇予想されるその他の子どもの考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原子力発電所で事故があるとどうなるの ・事故にならないようにどんなことをしているの ・原子力発電所ででたゴミってどれくらい危険なの ・水力発電は水をどれくらいいためるの ・風力発電機っていっぱい建てられないの |

| | |
|---|---|
| <p>本時</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <p>生活に必要な電気を供給し続けるために、電力会社ではどんな発電方法で電気を作つていけばいいのだろう。</p> </div> <p>○グループで考えを共有する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原子力発電は東日本大震災の時から使われなくなったけど、別に今でも電気に困っていないから無くてもいいと思う。 ・火力発電は二酸化炭素がいっぱいいるから地球温暖化がすすんじゃうよ。だから、火力発電はやめた方がいいよ。 ・ぼくは半分を火力発電、もう半分を水力や風力、太陽光にすればいいと思うな。 <p>○中部電力のとりくみについて知り、その上で、もう一度考える。 資料①</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・中部電力では、いろいろな発電方法を組み合わせた発電（ベストミックス）をしていることがわかった。僕も、組み合わせるのはいいと思う。 ・二酸化炭素や輸入の問題もあるから、火力発電にばかり頼れないと思った。もっと電気を大切にしていきたい。 </div> | <p>◇今後の自分たちの生活に関わってくる電気をどのような方法をとつて発電していけばいいか、自分に関わる問題として捉えるようにする。</p> <p>◇前時までに、自分の考えを固めておき、それをグループで発表し合う。</p> <p>◇実際の企業では、どのように考えて発電をしているのか知るとともに、いつでも電気が使えるよう、様々な発電方法を使って電気を安定供給していることを押さえる。</p> <p>◎資料を基に、今後の発電方法について考え、意思決定することができる。</p> |
|---|---|

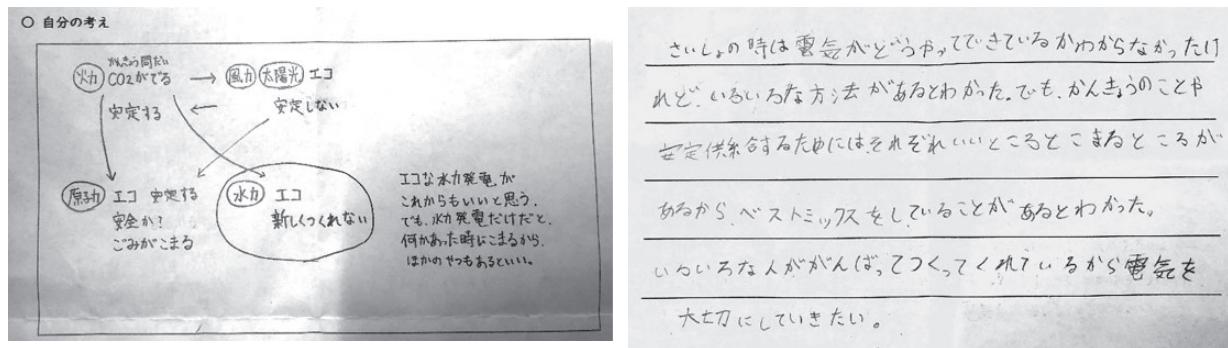
5 授業の成果と課題

- ・第3時にゲストティーチャーとして中部電力の方に来ていただき、発電方法の違いについて詳しく教えていただけたことで、子どもたちの興味も高まった。また、エネルギー資源が日本は乏しいことや、資源の枯渇についてわかりやすく解説していただけた。様々なSDGsの問題に対して、企業や大人はどんな考え方をもっているのか、子どもだけでなく、教員も参考になることが多くあった。



- ・子どもが今までに学んだことを活かして、自分の意見を明確にすることができた。事前に、見方・考え方ももつことで、意見の中に、「電気を安定して使えるようにする」「安全」「環境」という言葉が多くあり、意見もまとめることができた。
- ・エネルギー問題という難しい問題に対して子どもたち一人一人が意見をもち、対話することができた。その際、意見が違っていたとしても「そう考えたんだね」「確かに、火力発電だとCO₂のことが問題になるんだよね」と、互いの意見に寄り添う発言が多くあった。この姿が、平和的な解決の姿であると実感し、授業後に子どもたちに価値を伝えることができた。
- ・今回は中部電力の方にお話を聞かせていただいたが、授業の展開に関わらず、他の企業や市役所、環境団体など様々な方面からのアプローチがあることを大人も子どもも知ることが地球規模の問題を解決する、国際連帯や平和的な解決への一歩になるとえた。授業を構成していく上で、教員自身が一つの考えだけでなく、社会の現状をフラットな視点で捉えることも必要であり、自身の課題であると感じた。

6 資料等



資料①

◇ 2年間の研究を振り返って

本委員会での2年間の研究は、今まで行ってきた授業の内容について、国際連帯と平和教育という視点をもって、所員の方々と多くのことを学ぶ機会になったと思います。所員の皆さんからのアドバイスをいただいたり、多くの実践を見せていただいたりしたことで、自分の生活を支える電気について、発電方法について教えるだけでなく、今後の電気の安定供給について自分たちの身近にも地球規模で考えなくてはいけない問題があること、そして平和的に解決することに重きをおいた授業を考えることができました。

また、自分自身が電力事情について学ぶ中で、今後の電気の安定供給や環境問題について（様々な立場から）様々な考えをもった方がいて、1つの答えを導き出すことはとても難しいこと、子どもたちが将来的にそういう問題に向かっていかなくてはいけないことを改めて強く感じました。その上で、やはり、子どもたちには現状を知り、解決方法を考え、平和的かつ協力的に他者と解決していく力が必要になると痛感しました。今後も、今回の研究を通して学んだことや考えたことを心に置きながら、実践をしていきたいです。担任としての子どもたちとの関わりは1年間でしたが、今後も子どもたちの明るい未来を願う気持ちは変わりません。そのためにも、自己研鑽していきたいと感じました。



平和的に問題解決する力をつける 国語の授業

「みんなが幸いで、平和な世の中であってほしい」と、誰もが願っているものだと思います。しかし、一人一人が思い描く幸せの形や世界中の人々が置かれている状況は様々で、それが自分の幸福や利益を追い求めたとき、争いや衝突が起きます。世界中の「幸せでありたい」「平和な世の中にしたい」といった願いを実現するには、他者のことを思いやったり、今ある課題の解決に向けて、建設的・協力的に関わったりする力が大切だと考えます。こうした力を子どもたちにつけるべく、物事を多面的・多角的に捉え、自分なりの解決を考える授業を構想し、実践することにしました。

◇ 授業の具体 I

第6学年 国語科学習指導案

指導者 神田 美里（沼津市立原東小学校）

1 単元名 筆者の意見に対する意見文を書こう 「『本物の森』で未来を守る」

2 単元目標

「本物の森」を構成する木々の特徴や、「森の防潮堤」の構造をイメージし、筆者が訴える「森の防潮堤」の必要性を読みとるとともに、筆者の提案に対する自分の考えを明確にして意見文にまとめることができる。

3 単元について

子どもたちが本教材を読んだとき、単純に森の働きのすばらしさや有用性に感心するだろう。しかし、筆者の提案を読んでいくと、「森の防潮堤」を造るには長い時間がかかることや、いくら津波を防げるとは言え、大規模な作業が必要であることなど、大きな欠点がいくつかある。

「森の防潮堤」の良さと弱点がつかめるよう、本文からわかるることをもとに、絵と照らし合わせたり、図を描いたりする活動をとり入れる。教科書には下のような図が載っているが、本文から「三十メートルのおくゆきで、十メートル程度の深さまで土をほります。」「ガレキと土を



高さ三十メートルにまで盛り上げます。」などの言葉をもとに「森の防潮堤」の断面図を描くと、かなりの圧迫感を感じる（資料①）。30メートルの土に、木々の高さもプラスされ、子どもたちは実現が難しいと思うはずだ。

しかし、批判的に読んで終わってしまうと、多くの子が筆者の提案に反対するだろう。筆者の提案理由に戻り、「人々の命を守るために」「町の安全やみんなの財産を守るために」だという切実な思いに気づかせたい。

筆者の提案理由まで受け止めたあと、「東北の沿岸に『森の防潮堤』を造ることに賛成か、反対か」の立場を明確にして話し合い、意見文を書く。子どもたちは東北の海沿いに暮らす人々のことを考えながら論をすすめるだろう。その際に、筆者の考えの良さや弱点などを改めて検討したり、クラスで話し合ったことをヒントにしたりして、まとめられるようにしたい。

4 本時の構想

(1) 本時の目標 (7／9時間)

これまでの学習を根拠に、筆者の提案に対して賛成・反対の意見をもった子どもたちが、「東北の沿岸」に注目し、筆者の提案理由をふり返ったり、既習事項を挙げて話し合ったりすることで、自然災害から東北の人々の命や町の安全を守り、豊かな暮らしを叶える「森の防潮堤」のあり方について考えることができる。

(2) 学習過程

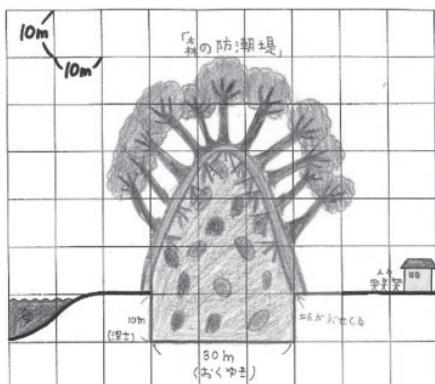
| 段階 | 予想される子どもの活動と教員の働きかけ ←個への支援 | ◎支援 | ※評価 | ・留意点 |
|------|--|-----|--|---|
| つかむ | 東北の沿岸に「森の防潮堤」を造ることに、賛成ですか、反対ですか。 | | | ・「東北」と投げかけことで、さらに「人命」「海のある暮らし」について考えを深められるようにする。 |
| 見通す | <ul style="list-style-type: none"> 津波から命を救えるから、絶対にあった方がいい。賛成です。 前に図を描いたけれど、「森の防潮堤」に囲まれた生活は息苦しいと思う。 「本物の森」ができるまで20年もかかるから、反対です。 東北の人たちは、どうしてほしいかな？ | | | ←賛成・反対の選択や判断に迷いそうな子には、「森の防潮堤」についてまとめたワークシートや筆者の提案理由と一緒に確かめる。 |
| 深める | <p>【賛成】</p> <ul style="list-style-type: none"> 人々の命を守ることができるなら、絶対にあった方がいいと思う。30メートルの高さなら安心できる。 震災のガレキを利用するというところもいいと思う。 東日本大震災の津波でたくさんのものが流されたから、漂流を防ぐ点でも賛成。 <p>【反対】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「本物の森」が完成するまでの20年に、また地震が来るかもしれないから反対。 東北の沿岸に400キロメートルも防潮堤を造ったら、海のある暮らしできなくなる。 本当に「森の防潮堤」を造るなら、今ある建物や道を削ることになってしまう。 | | <ul style="list-style-type: none"> 赤白帽子やネームプレートを利用して、お互いに賛成・反対の立場が把握できるようにする。 | ※評価C (1) オ <発言・ノート> ◎立場や理由が思いつかない子には、被災した東北の人々の思いが感じられるよう投げかける。 |
| まとめる | <ul style="list-style-type: none"> 自然を生かしながら命を守れるから賛成。でも、実現できるかは確かに心配。 ガレキを使って災害を防げるのがいいけれど、防潮堤の完成には時間がかかる。 <p>・人々の命を守りたいけれど、「森の防潮堤」を造るのは難しい。津波被害を大きく受けたところにだけ造るのならいいと思う。</p> <p>・「本物の森」が20年もかかるなら賛成なんだけど…。</p> | | | |
| ふり返る | <p>筆者に対する自分の意見を、「東北」という言葉を使ってまとめよう。 資料②～⑤</p> <p>・「こうすれば…」という新しい考え方や、中立的な意見も認める。</p> <p>・「森の防波堤」は、津波のエネルギーを弱めたり、引き波の被害を減らしたりする良さがあるから賛成です。東日本大震災で被災した東北の人々は、安心できるところに暮らしたいと思うからです。</p> <p>・「森の防潮堤」に反対です。図に描いた防潮堤に囲まれた生活では、のびのびと暮らしれないと思います。東北の海辺に暮らしてきた人々にとって、確かに安全も必要だと思うけれど、そこに住んできた思い出もあると思います。</p> | | | |

5 授業の成果と課題

- 本時では、家を立ち退く人に対して「募金で支援できないか」「防潮堤じゃなくて地下シェルターができないかな」など、命とくらしの両方を守ろうとする別の方法を考える子もいた。また、東北の人たちの命は大事だけれど、家を手放す人や、完成前の防潮堤が崩れて被害にあう人がいたら、自分たちの判断で良いのかと悩み、東北の人々のことを真剣に考えた。
- 当時3歳で、東日本大震災について多くを知らない子どもたちが、「とにかく命が助かるのなら何よりだ」という考え方から、「今のくらしを守ることができるのか」「そこに住む人々が何を望むのか」など、より広く現実問題を捉えたり、他者を思いやったりして考えることができた。
- 本時のあとの意見文でも、賛成、反対、どちらとも言えないなど、様々な立場で書いていたが、どの子も「命は大切である」ことを前提に、東北にくらす人々や、海から切り離した生活を想像して考えられた。
- ▲社会科での既習事項や自分たちの知識と経験を結びつけて考える姿が見られたが、本文から離れてしまう場面があった。
- ▲本時の話し合い活動によって全員が意見をもつことができたが、根拠が本文ではなく、友だちの意見に左右される子がいた。

6 資料

資料① 「森の防潮堤」の断面図



資料②
Aさんの
意見文

(4) 森の防潮堤を造るのに十五年から二十年かかる。年にかかるも、二十年の間に災害が起きたら、がしかしなに巻きこまれてしまふ。たくさんの大木が亡くなってしまうことがあります。後悔すると思います。

資料③ Bさんの意見文

理由は、「森の防潮堤」を造らず、二十年の間に津波がこなくて、例えば、二十一年後には津波が来てたくさんの人の命がうばわれたら、宮脇さんは生きと、あの時、造つておけばよが、たなあ」と田代はすだからです。しかも、造りとちうに津波が来ても土やガレキがうまく固まつていれば、ガレキなどがくずれてこないがもしれません。その造りとちうに一本や二本でもタブノキなどがたいてれば、くずれるべ配もありたいし、少しでも人々の命がなくなる事もないし、ひがいも激ると思ひます。あと、「森の防潮堤」がくずれてもいいせいすればいいけれど、人の命は失ってもさじ代するとはできません。

資料④ Cさんの意見文

理由は、①段落に「東日本大震災の時に南三陸におし寄せた津波が周りの斜面をくずして、そこに生えていたタブノキは、しきりと根を張り、生き延びていたのです」と書いてあります。そのくらい強い木々で形成される「本物の森」でつくられた森の防潮堤が多くの人の命や暮らしを守つくれるからです。後は、東北の人たちがまた津波が来たうどうしようか不安に思つているのなら、森の防潮堤をつくることで少し安心して暮らせるようになるかもしれません。

資料⑤ Dさんの意見文

理由は、森の防潮堤を造るには、二十年くらいかかるからです。それに、もし自分の家の前に森の防潮堤があるたら暮らしにくいと思うからです。

◇ 授業の具体Ⅱ

第5学年 国語科学習指導案

指導者 神田 美里（藤枝市立青島小学校）

- 1 単元名 資料を用いた文章の効果を考え、それをいかして書こう
「固有種が教えてくれること」「グラフや表を用いて書こう」

2 単元目標

- 文章と図表を結びつけて必要な情報を見つけたり、図表などの資料の効果を考えたりして、筆者の考えを読みとる。
- 統計資料を効果的に用いて論のすすめ方を工夫し、自分の考えを書き表す。

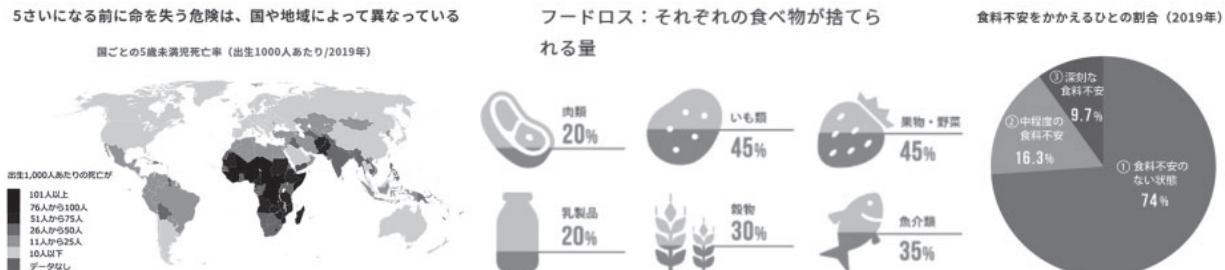
3 単元について

本単元では、まず説明文「固有種が教えてくれること」を読む。図表や統計資料を用いて、伝えたいことをわかりやすくしたり、説得力をもたせたりする書きぶりが特徴的な教材である。

子どもたちは、日本には多くの固有種が存在し、なぜそれらが長く生息し続けたのかを補足する「日本列島の成り立ち」「1年間の平均気温」「標高」の資料と本文を結びつけることはできるだろう。「伝えたいことをわかりやすくする働き」のある資料に関しては、筆者が資料を用いた意図が感じられるはずだ。しかし、イギリスと日本の固有種数を比較した表や、位置関係がわかる地図は、ある程度地理的な知識をもつ子どもたちにとって、本文の情報のみで理解することができる。筆者は大陸から切り離され、日本とほぼ緯度が同じくらいのイギリスをとり上げていると気づくことで、「説得力をもたせる働き」の資料の良さを感じられるようにしたい。

資料を用いた説明文を読みすすめた子どもたちが、「世界のくらしは良い方向へと向かっているか」をテーマに、実際に自分でも資料を用いて自分の考えを書きまとめる。お互いに意見文を読み合ったり、意見を交流したりする際に、共通の資料なら「私もね」「僕は反対で」など、練合ができるため教員が資料を用意する。意見文を書く際には、自分の主張が一貫していること、資料と本文を関連させて論をすすめることができるよう、アドバイスしていく。

同じ資料を選択したのに、考えが割れることがあるだろう。また、自分が選ばなかった資料を使った意見文から新たに気づくこともあるはずだ。「フードロス」「飢餓」「安全な水」「医療」など、自分が選択した資料に関する問題のみで主張する子どもたちが、交流したことであらわに世界には様々な課題があると気づき、深められるようにしたい。



子どもたちが実際に使用した資料の一部
(SDGs CLUB 日本ユニセフ協会ユニセフ日本委員会より)



4 本時の構想

(1) 本時の目標

友だちと意見を交流し、世界には自分が考えるよりも多くの問題があるのではないかと思った子どもたちが、友だち同士で意見を結びつけたり、複数の資料の関連や具体的な数量をもとに考えたりして話し合い、世界にある様々な問題に新たに気づくことができる。

(2) 本時の展開 (11／11時)

| 予想される学習活動 | ・支援 ◎評価 | | |
|---|--|--|---|
| <p>自分が書いた意見文を、友だちに紹介しよう。</p> <p>※違う考え方や新たな気づきがもてるよう、教員が意図的に組んだグループで交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 世界のほとんどの人が食料不安はないけれど、食べ物に困る人が少しでもいるなら、私はこのままでいいと思う。 5歳までに死亡する割合の資料と、マラウイと日本の医療の資料を使った説明は、自分では思いつかなかった。医者が少なくて、医療がすすんでいないから、多くの子どもが亡くなるという考えに納得しました。 もしかしたら、医療だけじゃなくて食料不足とかも死亡する割合に関係しているのかな。 なぜアフリカ大陸で多くの子どもたちが亡くなるのかな。 一部の人たちが、水や十分の食事もなくて、病院にも行けなくて苦しんでいるのかな。 <p>世界にはどんな問題があるのだろう。</p> | <ul style="list-style-type: none"> 自分と友だちの考えを比較しながら聞き合うよう投げかける。 資料の捉え方や考え方の違いに気づいたグループの様子をとり上げて、全体での話し合いにつなげる。 話題が混乱しないよう、「水・食料に関する数量」「医療に関する数量」と、話の流れに合わせて、統計資料の具体的な数量を紹介する。 | | |
| <p>※子どもたちが使用した資料の割合や数値について、具体的な数を紹介する。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 5px; vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> 45%の果物・野菜が捨てられていて、それがリンゴ3.7兆個分って聞いて、もったいないし、作ってくれた人にひどいと思った。 深刻な食料不安を抱える人が9.7%で、少しだから大丈夫だと思ったけれど、約8億人っていう人数を聞いて、全然大丈夫じゃないと思った。 </td> <td style="padding: 5px; vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> 北アフリカの貧困は減ってきているけれど、南の方では貧しい暮らしをする人が増えている。なぜだろう。 同じ一部の人たちが、食料も、きれいな水もなくて、具合が悪くても病院に行けず、薬ももらえていなかったら、とても悲しい。 どうしてアフリカばかりなのかな。 </td> </tr> </table> <p>・ほとんどの人が、水や食べ物に困らず、健康にくらしているけれど、一部の人は食事や医療が十分でないことが問題だ。</p> <p>・ゆたかなくらしをしている人と、貧しくらしをしている人の差がありすぎることに驚いた。</p> <p>・食べ物に困っている人がいる一方で、大量の食べ物が捨てられていることがわかった。自分も、食べ物を捨てる一人だった。</p> <p>○友だちと交流して気づいたことをふり返ろう。</p> <p>・フードロスが多いだけじゃなくて、捨てているのに食べ物に困る人が大勢いることが問題だなと思いました。</p> <p>・みんなで話し合って、一部の人が水、食べ物、医療に困って貧しくらしをしていることが問題だと思いました。</p> | <ul style="list-style-type: none"> 45%の果物・野菜が捨てられていて、それがリンゴ3.7兆個分って聞いて、もったいないし、作ってくれた人にひどいと思った。 深刻な食料不安を抱える人が9.7%で、少しだから大丈夫だと思ったけれど、約8億人っていう人数を聞いて、全然大丈夫じゃないと思った。 | <ul style="list-style-type: none"> 北アフリカの貧困は減ってきているけれど、南の方では貧しい暮らしをする人が増えている。なぜだろう。 同じ一部の人たちが、食料も、きれいな水もなくて、具合が悪くても病院に行けず、薬ももらえていなかったら、とても悲しい。 どうしてアフリカばかりなのかな。 | <ul style="list-style-type: none"> 最初に「世界は良い方向に向かっている」と考えた子の意見も認めつつ、世界には自分たちが知らなかつた問題がまだまだあったと思いつかせる雰囲気にしたい。 <p>◎友だちと交流したり 話し合ったりし、世界にはさらに様々な問題があると気づいている。【主体的に学びに向かう態度】 (ノート、発言)</p> <ul style="list-style-type: none"> 世界にある問題についてなかなかまとめられない子には、「医療」「アフリカ」「食料」などの視点を与える。 |
| <ul style="list-style-type: none"> 45%の果物・野菜が捨てられていて、それがリンゴ3.7兆個分って聞いて、もったいないし、作ってくれた人にひどいと思った。 深刻な食料不安を抱える人が9.7%で、少しだから大丈夫だと思ったけれど、約8億人っていう人数を聞いて、全然大丈夫じゃないと思った。 | <ul style="list-style-type: none"> 北アフリカの貧困は減ってきているけれど、南の方では貧しい暮らしをする人が増えている。なぜだろう。 同じ一部の人たちが、食料も、きれいな水もなくて、具合が悪くても病院に行けず、薬ももらえていなかったら、とても悲しい。 どうしてアフリカばかりなのかな。 | | |

5 子どもが書いた意見文の一部

- ふつうは大人やお年よりになると亡くなってしまいます、どうしてアフリカ大陸では子どものうちに命を失ってしまう国が多いのでしょうか。日本とマラウイの医師を比べると、マラウイは病気になってもお医者さんにみてもらうことが難しく、完全に治せないかもしれません。
- ほとんどの食料が30%以上捨てられている。個人的な考えだが、捨てずに加工食品として売るのがいいと思った。実際によびかけをしているとりくみで、消費期限の近いものを選んでむだなく食べることも大切だと思う。
- いも類、果物・野菜は多く捨てられています。その逆で、肉類、乳製品、穀物、魚介類は多く食べられ、フードロスが少ないです。
- その日食べるものがいる、餓死するかもしれない人がいるのにも関わらず、捨てられている食べ物の量はどうでしょう。いも類、果物・野菜はほぼ半分が捨てられているのです。私は、食べ物を残すことは人を見殺しにすることと同じだと思います。

6 授業の成果と課題

- 意見文に使用する資料を見た子どもたちは、特に「フードロス」の資料がわかりやすく印象に残ったようで、給食の際に「フードロスを無くすぞ」と、おかわりをする子が増えた。その中に「でもさ、もし完食してもしなくても、食べ物がない人たちのためにならないよね」とつぶやいた子がいた。「どうせ」というニュアンスではなく、「完食しても困っている人々の力になれない」という気づきだったと思う。
- ある程度共通の資料を用意したこと、「捨てられる肉類20%は少ないと思っていいのかな」「捨てられる食べ物があるなら、世界中の人に行き渡らないかな」と深めることができた。
- 完食する、募金するなどの考え方だけでなく、SDGsの本を借りたり、「自宅のテーブルからでも支援ができる」という国連WFP協会のテレビCMを見て調べたりするなど、学習の広がりが見られた。
- ▲「肉類のフードロス20%改善された」と資料の情報を間違えて捉える子がいた。資料について一通り簡単に解説したつもりだったが、5年生に合う資料をもう少し検討したり、資料とともに情報を付け加えたりしておくべきだった。

◇ 2年間の研究を振り返って

教科書の教材にSDGsの視点をとり入れることで、子どもたちが世の中の様々な問題に触れ、自分の考えをもつ授業づくりができた。少しの工夫で、平和的に問題を解決するために考えるという経験ができたと思う。しかし、教科本来のつけたい力も意識し、授業を構想することが大切だと感じた。子どもたちは、自分たちが知らなかったこと、考えたことがなかった問題にもしっかりと向き合ってきた。「森の防潮堤」も、フードロスやアフリカの人々のくらしも、今の自分たちの生活に何の影響もないが、困っている誰かのためにどうしたら良いかという思いが伝わってくることが何度もあった。物事を平和的に解決する経験ができる授業について、今後も考えていきたい。



だれもが安心・安全なくらしができる 未来をつくるために

子どもたち自身が、将来どんな自分になり、どんな社会を生きていきたいかをさまざまな授業を通して考えていけるようにしたいと思いました。

そこで、2年間を通して本校の特色である6学年を通じた平和教育とSDGsの視点をとり入れた教科横断的な学習をしたいと考えました。授業でとり上げたことだけでなく、日常生活の中でも平和的視点、SDGsの視点をもって生活できる子どもたちを育てていきたいと思い、実践することにしました。

◇ 授業の具体

小学校5年・6年 総合的な学習の時間

指導者 安西 佐織（磐田市立磐田北小学校）

1 研究テーマ 「だれもが安心・安全なくらしができる未来をつくるために」

2 テーマ設定の理由

本校では、全学年共通して1学期の総合的な学習の時間に平和学習を行っている。1年生から6年生が段階的に平和について学習を重ねている。平和学習を行う際、自国の戦争についてだけでなく、世界の現状に、視点をあて学習を行おうと考えた。子どもたちは4年次に福祉について「だれもが幸せに」をキーワードとして学習している。そこで5年次は「だれもが安心・安全にくらしていける」をキーワードとして学習をすすめていこうと考えた。6年次では平和についての語り継ぎ活動を行い、これからを生きる自分たちは何のために働き、未来をつくる一人となるのかを考えられるよう「私たちのつくる未来」をキーワードに設定した。

3 研究仮説

各教科の中で平和教育やSDGsの視点をとり入れることで、世界の現状を自分たちの問題として考えるきっかけや機会を増やすことができるのではないか。

4 授業実践

(1) 磐田北小学校における平和教育

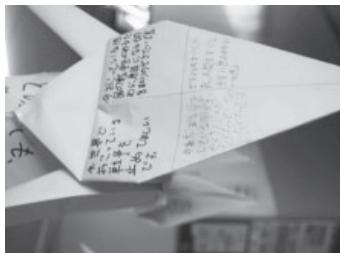
①経緯（資料1）

昭和20年5月19日、空襲から避難するために集団下校をしていた本校の子どもたちと引率教員田中早苗先生が、米軍B29爆撃機の落とした爆弾により、一瞬のうちにその尊い命を奪われてしまった。本校の平和教育は、人から人へ、時代から時代へ受け継がれてきた平和への思いを大切に考えたり、次代へ伝えていこうとしたりする気持ちを育てるために、平和週間を位置づけ、平和について全校で考え方行動する学習を行っている。

②活動内容（各学年の内容は資料2）

5、6年総合的な学習の時間「戦争被害から考える平和」

- ・世界の戦争、日本の戦争、世界の現状を知る。
 - ・平和への願いを込めて鶴をおり、メッセージをつけて校舎に掲示。
 - ・戦争体験を当時、北小学校に通っていた方から話を聞く。
 - ・平和への願いを込めて作文を書く。
 - ・北小学校で起こった戦争時代の悲惨な出来事について1年生に分かりやすく紙芝居やペーパーサートで表現して伝える。学校全体、地域の方に向けて平和への願いを広める。



鶴の羽の部分に平和への
願いなどを書き込み、
校舎内に掲示



③ 6年児童の感想

- ・戦争で死んでしまった人たちのためにも、戦争を起こさないために正しい生活をしたいと思った。
 - ・戦争時代のつらさを感じ、1年生に伝えることができた。
 - ・1年生に語り継ぐことができるぐらいの知識を6年間で具体的に知ることができた。
 - ・昔は、食べ物も違って学校に行ったあとの授業の内容も違う。いつ警報がなるかわからなくてこわい生活だったけれど、今は食べ物もおいしくて学校に行ったら算数や国語、図工などの授業をうけて平和な生活を送っている。
 - ・戦争について知ることだけでなく、伝えることもできるようになった。
 - ・平和学習をして、今がどんなに平和かがわかった。
 - ・今は昔に比べて、命を大切にし、平和主義になった。

④ 成果

本校の子どもたちは、1年生から継続して平和教育を行ってきたことにより、戦争の悲惨さについて知っている子が多かった。2020年度、2021年度と戦争の悲惨さだけでなく、世界の現状や戦争中の生活に視点をあて平和について考えた。それにより、平和な世界は誰もが願っていることであることや、現在の自分たちの生活が幸せであること、普段の生活も友だちと仲良く平和にくらし、命を大切にしたいという思いをもつきっかけとなった。また、語り継ぎという活動を行うことで、調べてわかった戦争の知識ではなく、伝わるよう話す、表現することのできる知識へと変容できた。

6 年平和作文

(2) 6年道徳科 「『働く』って、どういうこと?」

①主題名 働く喜び

「働く」って、どういうこと? 高-C-(14) 勤労、公共の精神

②本時のねらい

様々な職業の人のエピソードやアンケートから、人は何のために働くのか考えることを通して、働くことの意義を理解し、社会のために役に立とうとする実践意欲と態度を育てる。

③学習過程

1 職業調べの学習をふり返る。

○大人になったとき、どんなことを大切に考えて働きたいでしょうか。

・給料 ・働く時間 ・お休み ・やりがい

※キーワードを板書し、学習を通して大切にしたことについて深める。

2 資料を読む。

○宇都宮さんと閑嶋さんは、仕事をしていく上でそれぞれどんなことを大切にしているでしょう。

・使命感 ・世界中の人に味わってもらいたい。
・達成感 ・みんなが知りたいことを伝える。

※資料1、2で大切にしていることについて、自分に関してのこと、社会・他者に関すること、道徳的価値に関してのことで整理しながら板書する。

3 本時のめあてをつかむ。

人は、何のために働くのだろうか。

○人は、なんのために働くのでしょうか。

資料1、2で考えたことや資料3をもとに「自分に関して」「社会、みんなに関して」を分類しながら書き出そう。
・楽しく働くことができること。
・お金をたくさん稼いでよりよいくらしをする。
・世界のために

※児童の様子から考えが広がらない場合には、わたしたちがつくる未来の冊子を配布し、いろいろな企業のとりくみを参考にする。

4 これからの活動につなげる

○これからの未来をつくるために見付で働く人やさまざまな企業の人たちはどんな思いで働いているのだろうか。

・トヨタは自動車の開発をしているだけだと思っていたけれど、誰もが安心してくらせる街を作ろうとしているなんてびっくりだ。
・実際に働いている人たちの話を聞いてみたい。

※各企業が利益だけでなく、SDGsの視点をもち、よりよい未来をつくろうと努力していることを紹介する。

5 本時をふり返る。

・自分のやりがいやお金のことだけでなく、地球環境のことも考えて働いているなんてすごい。
・働くことは自分のためだけでなく、社会のためにもなっている。
・どんな働き方があるのかもっと知りたい。

※今後の活動「見付再発見」につながるように、実際に身近で働いている人たちの話を聞いてみたいという思いを膨らめる。

④子どもの感想

- ・働くためには個人個人の意味や理由がすごくあるんじゃないかなと思います。働くためには自分は3つ必要だと思います。「自分のため」「未来のため」「誰かの幸せのため」この3つがあれば働くと思います。
- ・私は働くということは、給料もらうため生きるためということだと考えていました。でも、この授業で働くということは「人のために」「みんなのために」ということもあると聞いて確かにそうだなと思いました。人のために働くというのは、仕事だけでなく委員会や係の仕事も人のためになっていると思いました。仕事をする時は、みんなのためを考えてみんなが生きていくように責任をもってしたいなと思いました。
- ・働く時に大切にしたいことは人それぞれみんな違っていた。しかしみんなの答えをたどると、どれも将来やこれからのためにというところにたどり着いた。だから、みんなはこれからをどうやって生きていくのか、どんな人生にしているのかを大切にしているのではないかと思った。
- ・自分は働くのは人のためだと思います。人のためが何かというと具体的にはわからないけれど、地球のため平和のためだと思います。

⑤子どもたちの学びの深まり

- ・自分のためだけでなく、未来のこと、人のためにという視点をもった。
- ・お金のための働くという思いから人のために、さらにそこから日常の学校生活へ広げて考えることができている。
- ・自分だけでなく、クラスのみんなの意見を聞いて、みんながどう感じているのかを知った。
- ・まだ答えはわからないけれど、今の自分の意見をもつ。

⑥子どもたちの様子からわかった成果

第5学年の総合的な学習の時間からSDGsの視点をもち、視野を広げて考えることができるようになってきたのではないかと考える。

授業の初めは自分のためにという視点が多く出た。その中で、人の幸せのためにという視点が出てから家族、ほかの生き物、ほかの国の人、環境、未来のためにと考えが広がった。今後、さまざまな職業の人々のインタビュー記事を読んだり、実際にインタビューしたりしながら個人の仕事への思いを知る活動を行っていきたい。また、個人の思いだけでなく、企業としての思い、世界の人々にも関心を寄せていくようにしたい。

5 資料

資料1 なぜ磐田北小で平和学習を行うのか

今から76年前の日本は、太平洋戦争も終わり頃になり、爆弾をつんだ飛行機が飛んできて、いつたくさん爆弾が空から降ってくるかわからないような、とても恐い毎日でした。

76年前の5月19日、爆弾を落とす飛行機がきたということで、磐田北小では、通学区別に集団下校することになりました。

幸・河原のグループは、田中早苗先生と共に、北高の坂を登って帰っていましたが、爆弾の音がたくさん聞こえてきたので、道路横の溝の中に小さくなって隠っていました。少しごとに、青白い強い光と耳が聞こえなくなるくらいのものすごい音とともに、大きな石のかたまりがた

くさん降ってきました。

土けむりがおさまり、まわりを見た子どもたちが見たものは・・・・！！

動かなくなった田中先生、飛び散った子どもたちのものと思われる手や足、ボロボロになってしまった服やかばん、なぎたおされた竹やぶにあいた大きなあな、そして竹につきささった体の一部。まるで地獄のようなむざんな光景だったそうです。

亡くなった子どもたちがもし今も生きていれば、80才過ぎでしょうか。きっと、まだまだ生きたかったことでしょう。亡くなった子どもたちの遺体が集められた場所には、子どもたちの家族の泣き叫ぶ声が、いつまでも響き渡っていたそうです。

こうしてたった一発の爆弾によって、19才だった田中先生、そして28人の命が、一瞬にして奪われてしまったのです。

その後、爆弾が落ちた道路の反対側に、子ども厄除け地蔵が建てられ、命日である5月19日に、亡くなった29人の供養が始まりました。

また、26年前には、見付の人々と北小の思いが込められた「平和のいしづみ」が建てられ、毎年平和を祈る集会が開かれています。

資料2 各学年のとりくみ内容例

| 低学年の目標 | | | |
|--|---|-----------------------|---|
| | 次 | 学習のねらい | 学習活動 |
| 1年 | 1 | 平和学習への導入 | <ul style="list-style-type: none">・戦争中北小に起こった悲しい出来事について知る。・『手と手たずさえて』を覚えて歌う。 |
| | 2 | 戦争や空襲について学び、平和について考える | <ul style="list-style-type: none">・教員による「平和ってすてきだね」の読み聞かせ。・今を生きる自分たちにできることについて考える。 |
| | 3 | 平和についての学びを深める | <ul style="list-style-type: none">・6年生から平和についての話を聞く。 |
| 2年 | 1 | 平和学習への導入 | <ul style="list-style-type: none">・戦争中北小に起こった悲しい出来事について知る。・『手と手たずさえて』を覚えて歌う。 |
| | 2 | 戦争や空襲について学び、平和について考える | <ul style="list-style-type: none">・戦争と平和について考える。(戦争時代と今の平和について対比させる)・自分たちがこれからできることを考える。 |
| | 3 | 平和についての学びを深める | <ul style="list-style-type: none">・平和集会で改めて平和の意味を考える。 |
| 中学年の目標 | | | |
| 5月19日に起きたことを聞いたり調べたりする活動を通して、平和や自他の命の尊さに気づく。 | | | |
| 3年 | 1 | 平和学習の導入 | <ul style="list-style-type: none">・平和について既習事項を確認し、調べたいこと、知りたいことを出す。 |
| | 2 | 戦争や空襲について学ぶ | <ul style="list-style-type: none">・戦争や空襲について、教員の読み聞かせを聞き、感想を書く。・図書室や図書館の本を使って戦争や空襲について調べる。 |
| | 3 | ゲストティーチャーから戦争について学ぶ | <ul style="list-style-type: none">・退女教の先生方に来ていただき、戦争時代の暮らしについて学習する。 |
| | 4 | 学習したことをまとめて文を書く | <ul style="list-style-type: none">・平和学習について1枚の紙にまとめる。 |

| | | | |
|--|---|-----------------------------------|---|
| 4年 | 1 | 平和学習の導入 | ・平和について既習事項を確認し、調べたいこと、知りたいことを出す。学習計画を立てる。 |
| | 2 | 戦争や空襲について学ぶ | ・戦争や空襲について教員の説明を聞き、動画を見て感想を書く。 |
| | 3 | | ・まんが子ども太平洋戦争を読んだり、絵本の読み聞かせをしたりして感想をもつ。 |
| | 4 | 学習したことをまとめて新聞を書く | ・長谷川トキ先生をはじめとする退女教の先生方に来ていただき、戦争時代の暮らしについて学習する。 ・平和について学習したことを、グループで1枚の壁新聞にまとめる。 |
| 高学年の目標 | | | |
| 戦争体験者の方から聞いたことや、自分で調べたことをまとめ、5月19日の出来事を友だちや下級生に語り継ぐ活動を通して、平和や自他の命の大切さに気づく。 | | | |
| 5年 | 1 | 平和学習の導入 戦争体験者の方の話を聞く | ・本校の平和教育を確認し、戦争について調べたいこと、知りたいことを挙げる。 |
| | 2 | 世界、日本の戦争について調べる | ・世界、日本の戦争について本やパソコンで調べる。 |
| | 3 | 調べたことを新聞にまとめる | ・新聞にまとめる。 |
| | 4 | 新聞発表をする | ・新聞にまとめたことを発表し交流する。 |
| 6年 | 1 | 平和学習の導入 | ・本校の平和教育を確認し、伝えたいことをまとめる。 |
| | 2 | 平和祈念の鶴作成 | ・平和の願いを綴り大きな白い鶴を折る。 |
| | 3 | 戦争体験者の方の話を聞く | ・5月19日被爆したが生存していた尾崎さんの話を聞く。 |
| | 4 | 平和を祈る集会に向けて戦争の悲惨さ平和の尊さを語り継ぐ気持ちをもつ | ・慰霊祭、平和を祈る集会が毎年行われている意義について考え、戦争体験講話や調べたことをもとに平和学習で考えたことを作文にする。 |
| | 5 | 平和学習でわかったことを1年生に語り継ぐ | ・見付の空襲、全国の空襲、日本が戦争した理由、戦争はなぜ起るのかなど、グループごと動画を作成（コロナ対応のためリモート）し、1年生に語り継ぐ。 |

◇ 2年間の研究を振り返って

さまざまな授業の中で平和教育、SDGsの問題を振り返ってみるとどれもつながっていることがわかった。普段の生活の中で、子どもたちから「それってSDGsだね。」という言葉が出るようになり、常に意識されるようになったことをうれしく思った。また、1年生から継続して戦争について触れる環境が「『戦争=ちいさな争い』という認識を生み、段階を経て自分たちの生活も平和的に解決したいという思いをふくらますことができた」と子どもたちの感想から実感した。一人一人の問題としてとりくんでいこうという意識をもつことができたのは、これから未来を生きる子どもたちにとって大きな成果だと感じた。SDGsの17の目標のうち、よくとり上げているものについては意識しているが、すべてについて知っているわけではない。また、思いや願いをもつことはできたが、改善やよりよくするためにどうしたらよいかという実践についてはまだできていないと感じる。自分たちの問題であることを意識し、常に自分にできることをやっていこうという気持ちをもち続ける子どもを育てていきたいと思う。

日中韓のよりよい関係について考える

社会科では、日中韓の領土をめぐる問題について学習することが必須となりました。しかし、事実を伝えるだけでは、生徒たちの中国・韓国に対する反発心ばかりが強くなってしまいます。

日中韓の間で起きている現実を受け入れた上で、政治レベルではなく、自分たち国民目線で、どうすれば日中韓の関係をより良いものにしていけるのか、それを授業の中で考えることが「平和的解決能力の育成」につながると思い、小学6年と中学3年の社会科で「日中韓のよりよい関係のあり方について考える」活動を実践しました。

◇ 授業の具体

社会科学習指導案

指導者 梶山 高秀（静岡市立井川小中学校）

1 単元名 「国際社会の平和をめざして」

2 単元目標

日本政府の対中国・韓国に対する外交政策の基本的な考え方について理解した上で、日中韓のよりよい関係を築くために自分たちができるることは何かを多面的・多角的に考察し、政治参画の意識をもって粘り強く考えようとしている。

3－1 小学6年社会科の実践

(1) 単元の構想

第1時「日中韓サミットの写真」→・安倍総理と中国、韓国の偉い人が握手している。

日本と中国と韓国って仲がいいの？

・中国や韓国の人たちが日本に対してデモを起こしている映像を見たことがある。

「中国における反日運動」「韓国における反日運動」→なぜこんなデモが起きたの？

「中国による尖閣諸島の不法侵入」「韓国による竹島の不法占領」

→中国や韓国のやり方に納得いかない！

「日本の米中韓国に対する印象調査」

日本が、中国や韓国と仲良くするのはやっぱり難しいね。

日本・中国・韓国の関係が、良くなる可能性はないのかな。

第2時「中国、韓国の対日感情世論調査」

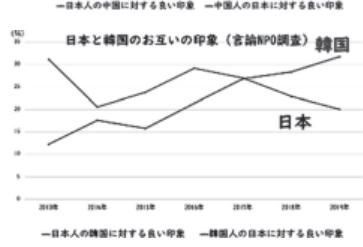
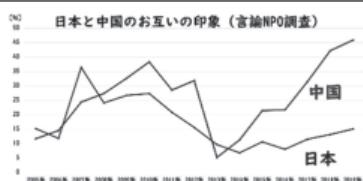
[本時] ・中国も韓国も、日本に対する良い印象が、近年上がっているのに、日本は低いまま。

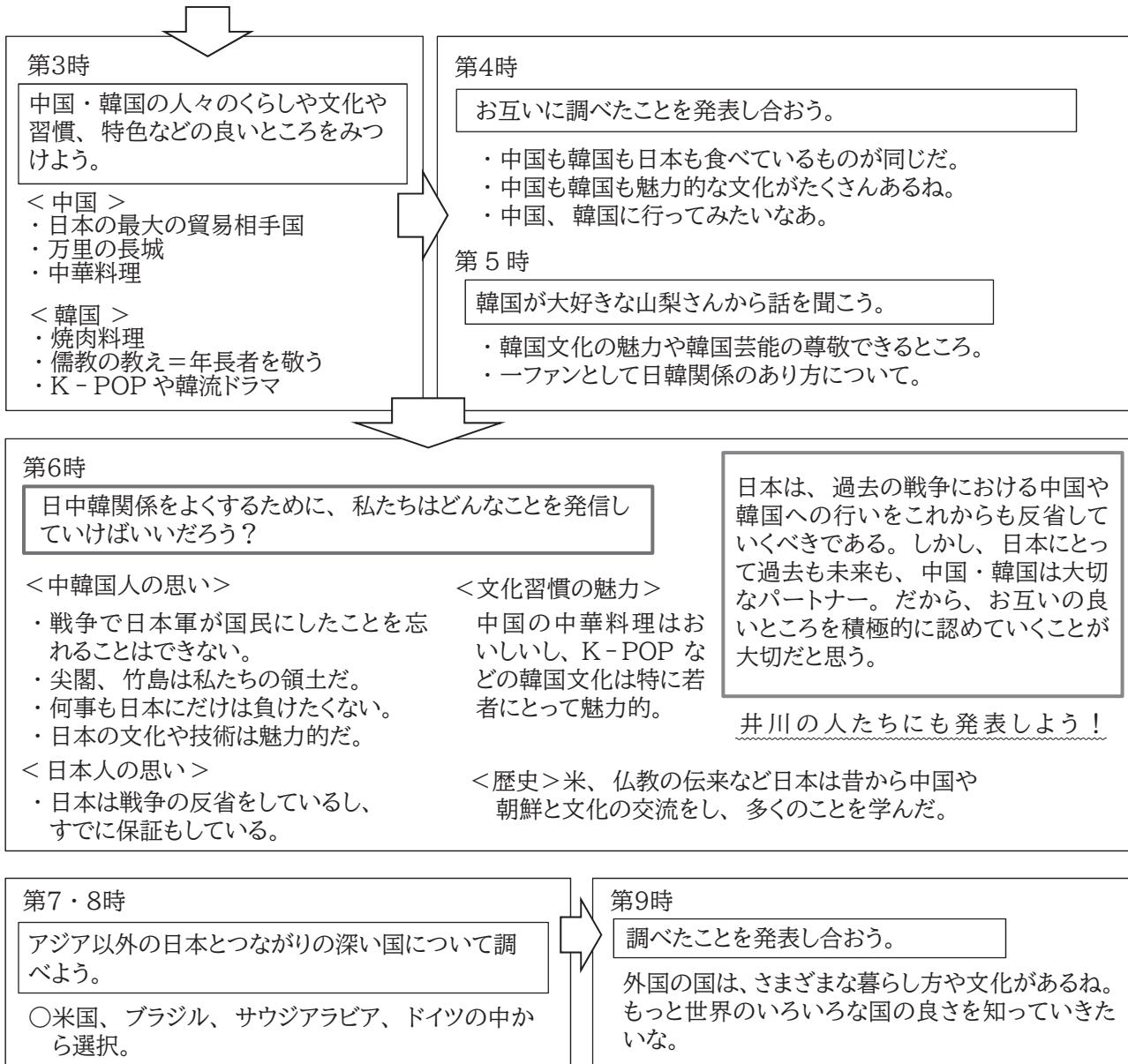
なぜ、中国や韓国が日本に対する印象は良くなってきているのだろう？

- ・若い人たちが日本のアニメや漫画が好きだから。
- ・日本の家電が魅力的じゃないかな。
- ・日本の食文化を気にいっているから。

中韓の若者は、日本の良さを理解している人も多い。それに対し、日本人は、まだ中韓の悪い部分を気にしている人が多いんじゃないかな。

私たちが、中韓の文化や習慣の良さを知り、多くの人に伝えることが大切だ。



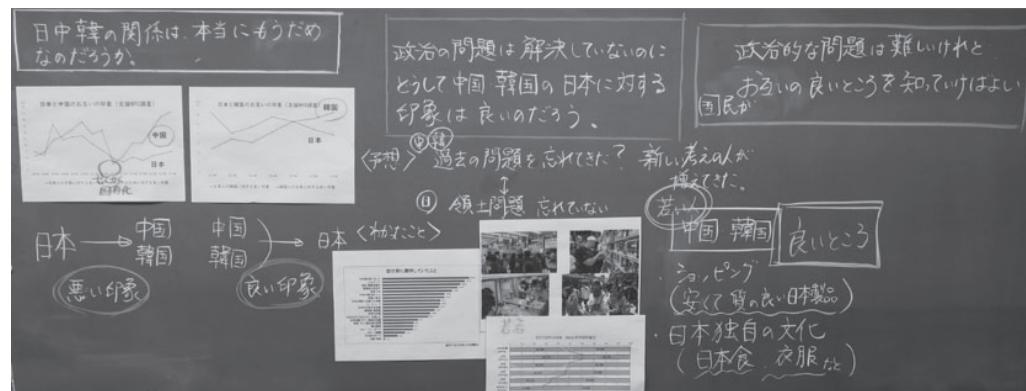


(2) 授業の成果と課題

- 領土問題に対する日本政府の方針をしっかりと理解した上で、日中、日韓の外交問題の難しさを6年生なりに感じることができた。
- さまざまな資料を活用することで、日中韓のより良い関係づくりについて政治的側面だけでなく国民目線にたって、多面的にとらえることができた。また、子どもの思考をつなげる単元構想を立てたことで、中国や韓国の文化・習慣について目的意識をもって、意欲的に調べることができた。
- 本校は、山間地の極小規模校であるため、世界に対する視野が狭い。そのため、彼らにとって、中国や韓国を自分自身の経験と照らし合わせてとらえていくことは難しい。それゆえに、日中と日韓の関係を同時に考えていくことにも難しい面があった。

(3) 資料

本時における
子どもの思考
の流れ
(本時板書)



韓国や中国の文化の良さを調べ
地域参観会で発表する

3-2 中学3年社会科の実践

小学6年の実践で見えた課題から、生徒の実態を捉え、生徒にとってより身近な韓国に絞り、授業計画を組み直した。さらに本校の中学生は1人と極小規模校のため、同級生との意見交換ができない。そのため、同じ山間地の学校とオンラインで「日韓関係のよりよいあり方を考える」をテーマに授業を行った。

(1) 本時の目標

資料を読みとり、日韓の相手国に対する感情差の原因を考える活動を通して、日中韓関係の問題を政治的な解決以外の方法を見いだしている。

(2) 指導過程

※本時は、井川小中と梅ヶ島小中とのオンライン授業

| 段階 | 教員の働きかけと予想される子どもの活動 | 留意点 |
|----------|--|--|
| 前時 まで | <p>[韓国との領土問題]</p> <ul style="list-style-type: none"> 1905年の閣議決定で竹島が島根県に編入。 1951年サンフランシスコ平和条約で、韓国側の領有主張は退けられる。 1952年韓国が李承晩ラインを一方的に設定し、以後不法に占拠する。 →国際司法裁判所での話し合いを韓国側が拒否 日本製品の不買運動、度重なる戦争責任を求める抗議 (徴用工、慰安婦問題など) →1965年日韓基本条約で、日本は戦後賠償として多額の経済協力を実行している。個人補償は、韓国政府にゆだねられたため、未だ解決していない。 | <ul style="list-style-type: none"> 本時までに、日韓の領土をめぐる外交問題を理解させる。 韓国の反日運動の事実も伝え、日韓の関係づくりが外交レベルでも難しいことを押さえたいたい。 その上で、どのような外交を行っていけば良いか、「クラスルームのドキュメント」に自分の考えを記入する。 |

| 段階 | 教員の働きかけと予想される子どもの活動 | 留意点 |
|----|--|---|
| 導入 | <p>○日韓、日中の外交問題の難しさを、簡単に復習する</p> <p>日本は韓国に対し、どのような外交を行っていけば良いのだろうか?</p> <p>[A: 対韓強硬論]</p> <ul style="list-style-type: none"> 韓国の行いは、不法な行為であり、特に暴力行為や竹島の実効支配に対しては、軍を派遣するなどして強硬姿勢をとるべき 政府が、世界各国を動かし、もっと強硬姿勢を貫くべき。 <p>[B: 対中韓協調論]</p> <ul style="list-style-type: none"> 領土へ侵犯は許されない行為であるが、韓国は、日本の大事な貿易相手国であり、強硬姿勢は避けた方が良い。 <p>↓</p> <p>日中間それが、互いの國の良さを認め合っていくのが良い。</p> <p>↓</p> <p>○資料 I 「韓国の対日感情世論調査」を提示</p> <p>より良い関係づくりにつながる、それぞれの良さって何だろう。</p> | <ul style="list-style-type: none"> 日韓の領土を巡る外交問題については、解決が難しい現状を確認する。 学習課題を提示 参加者全員で討論 生徒4人 教員3人(T2は韓国文化を紹介する立場として参加) 討論がBの方向でまとまるようなら②の学習問題に焦点化していく。 討論がAの方向にすすんだ場合、資料Iを提示し、③の学習問題について全員で話し合う。 ③の補助資料として 資料II「訪日前に期待していたこと」 資料III写真「韓国若者観光客」 資料IV「日韓関係にどう対応すべきか」 最終的な自分の考えを、各自発言する。 教員が本時の価値づけをする講評をする。 |
| 展開 | <p>● 横軸国に対する印象(世論NPO調査)</p> <p>● 日本の韓国に対する悪い印象は高いままであまり変化ない。</p> <p>● 韓国、日本に対する悪い印象は下がってきている。</p> <p>↓</p> <p>日本人と韓国人とで対相手国に対する感情に差があるのはなぜだろう。</p> <p>● 韓国の若者は、日本の良さを理解している人も多い。それに対し、日本人は、まだ韓国の悪い部分を気にしている人が多いんじゃないかな。</p> <p>↓</p> <p>だから、まずは私たちが韓国の文化や習慣の魅力を知り、それを多くの人に伝えていく。そうすれば、自分たちでも韓国の関係をよくしていけるのではないか。</p> | <p>● 日韓関係の問題を解決していくためには互いの文化や習慣を尊重することが大切であることに気づき、自分たち国民レベルでの解決方法を見いだしている。</p> <p>【思考・判断・表現】(発言、ノート)</p> |
| 終末 | <p>○資料 II 「最新の韓国の対日感情世論調査」を提示</p> <p>● 韓国対日感情の推移</p> <p>● 終末に、現状の調査結果を伝え、さらなる平和的解決方法の模索を促す。</p> | |

(3) 本時における生徒のあらわれ

T 1 : 日本は、韓国に対してどのような外交を行っていけばよいだろう？

(A～Eは生徒、T 1, 2は教員)

A : 竹島を、日本と韓国の共有にすれば良いのでは？

B : このまま竹島問題を話し合っていても、解決しないのでは。だから共有に賛成。

T 1 : でも、竹島は日本固有の領土なんだよ。本当に韓国と共有でいいの？

C : できれば返してもらったほうがいいけど、それが難しい。竹島でそこまでもめていても意味ないのでは。

D : 国際司法裁判所でしっかり話し合って解決した方が良いのでは。

E : 私は、韓国の漫画が好き。領土でもめていても解決はしないのだから、もっとお互いの文化を共有すれば。

T 1 : 「韓国の対日感情世論調査」を提示。

C : 相手の印象が、日本の方が韓国より低いとは思わなかった。なぜだろう？

A : ???なぜなのかさっぱりわからないな…

E : 2014年以降、韓国の日本の印象が上がっているのはなぜだろう？

C : 韓国で日本のものがはやったり人気になったりしたのかな。

T 1 : 4枚の写真「韓国人の日本観光の様子」を提示。

E : やっぱり、日本の文化を好きな人が増えているんだね。

T 2 : 私は学生の頃から、韓国のアイドルやコスメが好きでした。韓国アイドルのプロ意識は素晴らしいです。

B : 今T 2先生が話してくれたことよくわかります。私も韓国アイドルが好きですが、彼女たちの美意識の高さは、すごく好きです。

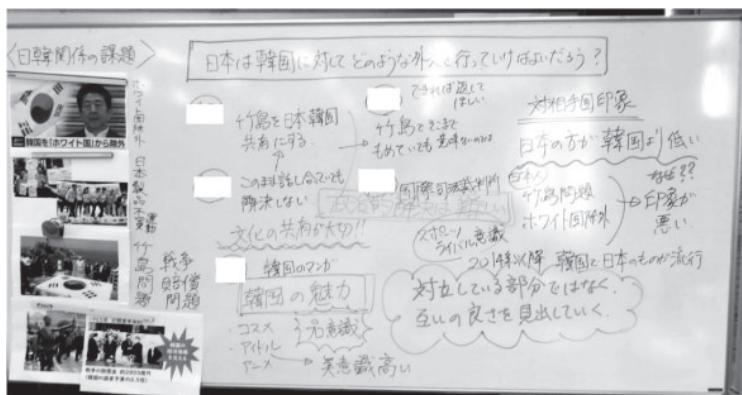
A : ぼくは、韓国の魅力はわからないけど、スポーツが好きで野球の日韓戦を見ると、韓国が日本にライバル意識むき出しで仲が悪いのかと思っていた。でも、スポーツにおいてもだんだん日韓が友好的になってきたんじゃないかな。

B : ぼくの姉妹も、韓国アイドルや歌手が大好きです。そうやって、領土などで対立している部分だけではなく、お互いの良さを見つけていくことが大事なんじゃないかな。

C : 私は、これまで正直言って韓国には全く興味がありませんでした。でも、みんなの話を聞いて、韓国にも良いところがたくさんあるんだなと思いました。もう少し韓国に興味をもって調べてみようと思います。

(4) 資料

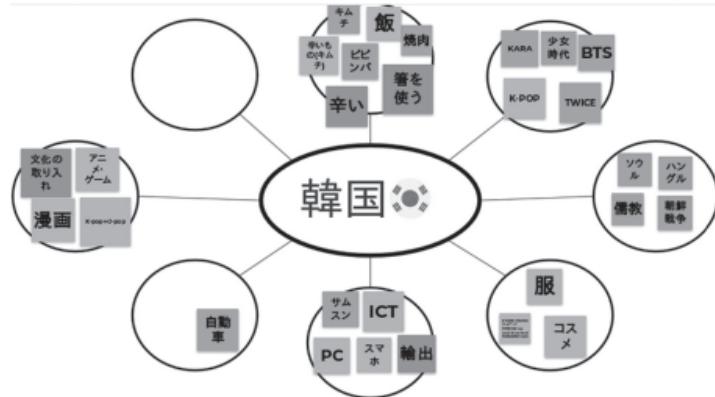
本時の討論をまとめた板書



オンライン授業の様子



「韓国と言えば」イメージマップ



生徒の授業前と授業後の感想（クラスルームで共有）

日本は韓国に対しどのように外交を行っていけばよいのだろうか

韓国の賠償問題については筋道を立てて、根拠とともにしっかりと説明すれば良いと思う。

解決した場合はホワイト国に戻すべきだと思う。

解決しなかった場合はもう無視すればいいと思う。

竹島については、ゆっくりと話し合うべきだと思う。

竹島についてはともに住むのはだめなのか
・ともに住めば互いの良いところにも気づけるだろうから
・単に仲良くしたい

授業を振り返り自分の考えをまとめよう

これから韓国との関係はどうなっていくかわかりませんが、韓国も素敵なところがたくさんあるので、良い関係になっていくといいなと思いました。

自分とは違う意見が聞けたので良かったです。またこれからは、韓国の良いところなども見ていきたいと思います。

(5) 授業の成果と課題

○日韓関係を、領土問題や反日運動などの難しい側面からだけではなく、異文化理解という側面からも考えたことで、自分たちの目線でより良い関係のあり方を考えることができた。

○東アジアの外交関係を、あえて日韓に絞ったことで、具体的な意見交流ができた。それにより、異国の文化や習慣について関心を高めることができた。

▲異文化理解を通じた相手国の理解が深まれば深まるほど、領土問題も仲良く分け合うという考えが芽生えてしまい、中韓の領土侵犯に対する毅然とした判断が弱くなってしまう。

◇ 2年間の研究をふり返って

「日中韓のよりよい関係について考える」というテーマで、小6と中3の2学年で実践を行ってきたが、小・中両方で授業を実践したこと、それぞれの発達段階に応じた支援を行えば、小学6年生でも十分に扱えるテーマであり、また中学3年生にとって、社会科のまとめ教材として、また社会参画の意識を育てる教材としても有効な題材であることを確認できた。

難しい側面ばかりがクローズアップされてしまう日中韓関係ではあるが、未来を生きる子どもたちの、他国を思いやり、異文化を積極的に理解しようとする心が養われていけば、日中韓の過去ではなく、現在、そして未来を見つめた上でより良い関係づくりを構築してくれるのではないかと思う。

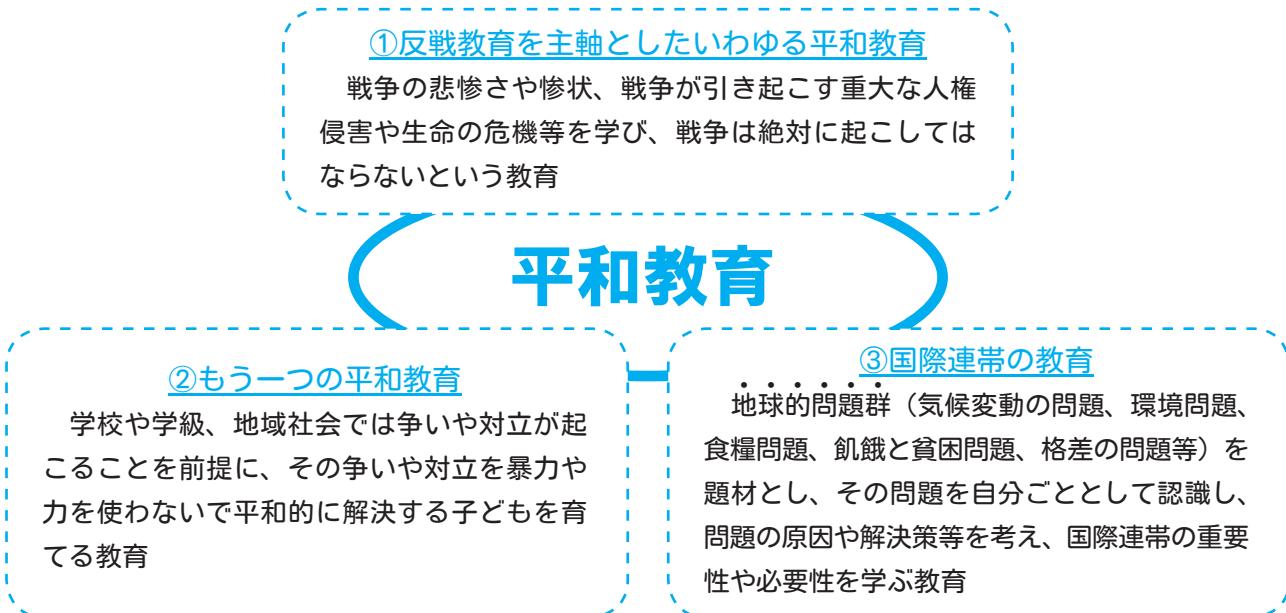
2年間の研究をふり返って

1 「国際連帯と平和教育研究委員会」の押さえと研究内容

教育研究所は、1983年に「平和教育研究委員会」を立ち上げて以来、平和教育について研究実践を重ねてきました。現在では、国際連帯と平和教育研究委員会と名称を変え、「いつでも、どこでも、だれでもできる平和教育」を合言葉に、現場での教育実践に努めています。

平和教育と言うと、反戦平和教育というイメージが強いのですが、平和を広く解釈し、子どもや大人が安心して豊かに人間らしい生活ができる社会であることを願い、そのためには平和教育の教育実践はどうあつたらよいかを考え研究をすすめてきました。

教育研究所が押さえる平和教育の中身を示し整理すると、下の図のようになります。



2 実践と考察

7人の所員による2年間の授業実践の実績は、次のとおりです。

① 反戦教育を主軸としたいわゆる平和教育…1本

反戦教育を主軸とした平和教育は、地域教材を生かした、総合的な学習の時間での授業実践でした。人から人へ、時代から時代へ受け継がれてきた平和への思いを大切に考え、次の世代へ伝えていく気持ちを育てる実践でした。学校全体で平和週間を位置づけることで継続的に子どもの意識を高めました。

② もう一つの平和教育…2本

実践の2つは、道徳科でした。道徳の実践は、「親切、思いやり」、「国際理解、国際親善」「希望と勇気、努力と強い意志」という価値項目を扱った授業でした。コロナ禍で学校教育は大きく変化をする中、子どもたちは、人間関係を作りづらくなっています。身近な人が新型コロナウイルスに感染することをイメージしたり、その時にどのような心持ちで過ごしたらいいかを考えたりすることは、相手を思いやる気持ちを育てるために、必要なことであると考えます。これまで当たり前と思っていた他者との生活ができなくなった今だからこそ、他者との関わりについて考えることは大切であり、他者を意識することが平和的に解決する

力を育てる教育の基本であると考えます。その意味で、道徳科の学習を通して、平和教育を実践することには大きな意義があります。

③国際連帯の教育…7本

国際連帯の教育の実践は、2015年に国連で採択されたSDGs（持続可能な開発目標）の視点をとり入れたものでした。

給食という子どもたちにとって身近な場面を題材にし、SDGsの視点（目標12のターゲット3）を単元計画に組み入れ残飯、フードロスを考えるという実践でした。SDGsの視点を入れることにより、食事の大切さについて、学校だけでなく子どもを通して家庭への広がりにつながるような実践でした。

3 実践研究を通して見えてきたこと

(1) 地域教材を生かした平和教育の実践を

2020～2021年度の実践の中で、着目したい実践がありました。それは、地域教材を生かした平和教育の実践です。その学校では、学校の子どもたちや教職員が犠牲となった悲惨な戦争体験があり、総合的な学習の時間の中で6年間という計画性をもって継続的に平和教育を実践したものでした。この実践がこれからも受け継がれていくことを願うとともに、平和教育の実践にとりくむ際には大いに参考にしたいものであると感じます。

(2) 様々な教科・領域を通して、SDGsの視点をとり入れた平和教育の実践を

国際連帯と平和教育研究委員会は、2010～2013年度までの4年間、共同研究者である伊藤恭彦先生が提唱した地球的問題群を題材にした実践を研究しました。それは、この問題について知り、考え、学ぶことが、実は平和教育の一つであるという理由からです。

折しも、SDGsが注目を浴び、学習指導要領にも一定の記述がされたこともあり、2020～2021年度の研究では、伊藤先生からアドバイスを受けながら多くの所員がSDGsの視点をとり入れた平和教育の実践をすすめました。「平和教育＝社会科」というイメージがありますが、所員の実践にもあるように、社会科の授業以外にも国語科や学級活動など学校教育の様々な場面でSDGsの視点をとり入れた平和教育の実践は可能です。

世界では、日本では考えられないようなことが起こっています。その犠牲となるのは、多くの場合子どもたちです。子どもたちの未来を希望あるものにするために、子どもたちも、教職員も世界の状況を知り、自分ができることは何なのかを考え、行動する力を育てるとともに国際連帯の重要性や必要性を学ぶことが求められます。

(3) 多面的・多角的な視点をとり入れた平和教育の実践を

情報社会である現代において子どもたちは、メディアから得られる情報がすべて真実として捉え、一部の国に対して自然とマイナスなイメージをもってしまします。国や文化、考え方のちがいなど、様々な世界を知ることが平和教育の第一歩となります。2020～2021年度の所員には、海外の日本人学校で勤務したり、幼少期に海外で生活したりした方がおり、マイナスなイメージをもたれがちな国の良いところや日本とのつながりについて授業を通して子どもたちに伝える、海外経験を生かした実践でした。

世界には、いまだ多くの争いや対立がある中、暴力や力を使わないで平和的に解決する子どもを育てる教育には、子どもたちだけでなく、教職員も様々な情報を多面的・多角的な視点でとらえることが求められます。

国際連帯と平和教育研究委員会（2020～2021年度）

共同研究者

伊藤 恭彦（名古屋市立大学 教授）2020～2021

加治 宏基（愛知大学 准教授）2020～2021

所員

梶山 高秀（静清教組）2020～2021

寺田 祐基（賀茂支部）2020～2021

斎藤 尊（東豆支部）2020～2021

小林 健二（富士支部）2020～2021

神田 美里（沼津支部）2020

（志太支部）2021

富田 由美（榛原支部）2020～2021

安西 佐織（磐周支部）2020～2021

事務局

内田いづ美 2020～2021

佐野 友美 2020

福代 淳子 2021

野村 昌宏 2020

藪嵩 哲郎 2021

ものごとを多面的に捉え平和的に解決する子どもたちを育てるために ～3つの視点による平和教育実践集～

編集・発行／静岡県教職員組合立教育研究所「国際連帯と平和教育研究委員会」

〒420-0856 静岡市葵区駿府町1番12号 静岡県教育会館

発行者／教育研究所運営委員長 赤池浩章

発行日／2022年2月



静岡県教育事業団体のサポート

～県内の児童・生徒、教職員、保護者の皆様に向けて～

『これで安心!!新1年生』

後援：静岡県PTA連絡協議会

「新1年生をもつ保護者の皆様のご不安・ご心配が、少しでも小さくなったらいいな。」

「入学する子どもさんと家の方と一緒にになってうきうきしながら入学準備ができたらいいな。」

「保護者と学校とが素敵につながるためのお役に立てたらいいな。」

こんな思いを込めて作成しました。

○保護者から届いたメッセージ○

この冊子で、自分ができていた事、やらなければいけない事がはっきりわかり、これから入学するにあたって不安がいっぱいでしたが、できる事からはじめようと思いました。まずは、「できるかな」と子どもと一緒にやってみようと思いました。とても具体的でわかりやすいので楽しみながらやってみようと思います。ずっと保存して時々読み返そうと思います。
(S市・Aさん)



教育講演会



「教育講演会」は、静岡県下の教職員並びに教育関係者の皆様が知識と教養を高めるとともに、地域社会の文化の向上に寄与することを目的に、昭和50年から実施しています。毎年、10,000名を超える小・中・高・特別支援学校等の教職員・教育関係者の皆様にご聴講いただいております。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大のため縮小せざるを得ませんでしたが、例年各地区の運営委員会の企画のもと、県内25会場ほどで、二十数名の講師を招いて実施しています、令和3年度の講演にご期待ください。

静岡県教育事業団体



一般財団法人 静岡県教職員互助組合

静岡市葵区駿府町1-12 静岡県教育会館 2F TEL:054-254-3626
互助組合ホームページへは、[ごじょ丸](#) 検索



一般社団法人 静岡県出版文化会

静岡市葵区駿府町1-12 静岡県教育会館 3F TEL:054-255-4451
出文ホームページへは、[出文](#) 検索



株式会社 静岡教育出版社

静岡市駿河区曲金 5-5-38 TEL 054-281-8870
出版社ホームページへは、[静岡教育出版社](#) 検索



静岡県教職員生活協同組合

静岡市駿河区登呂 6-14-27 TEL:054-282-2140
教職員生協ホームページへは、[教職員生協](#) 検索



静岡県学校生活協同組合連合会

静岡市駿河区登呂 6-14-27 TEL:054-282-2166
URL <http://www.kyousyoukuin-seikyo.com/link/rengoukai/>



公益財団法人 日本教育公務員弘済会静岡支部

静岡市葵区駿府町1-12 静岡県教育会館 4F
TEL:054-205-5130



地区を支える学校生活協同組合

賀茂地区学校生活協同組合 ☎0558-22-1115

田方地区学校生活協同組合 ☎0558-76-8224

東豆地区学校生活協同組合 ☎0557-37-8766

三島地区学校生活協同組合 ☎055-981-0521

静岡県駿沼学校生活協同組合 ☎055-921-0333

富士地区学校生活協同組合 ☎0545-35-7272

静岡地区学校生活協同組合 ☎054-257-0701

志太地区学校生活協同組合 ☎054-634-1166

榛原地区学校生活協同組合 ☎0548-22-1355

小笠地区学校生活協同組合 ☎0537-24-1617

磐田周智地区学校生活協同組合 ☎0538-35-1830

浜松市学校生活協同組合 ☎053-482-7241

<http://www.stu.jp/>



最後までお読みいただきありがとうございました。
この所報をお読みになったご意見・ご感想をお聞かせください。
皆さんからいただいたご意見・ご感想は、今後の研究活動や成果発信に生かします。

**STU Institute of Educational Research
静岡県教職員組合立教育研究所**

FAX: 054-255-5110